

大和名所圖會

十市郡
芳野郡
六
乾

ル 4
5326
6



伊勢新

大和名所圖會卷之六

十市郡目錄

多武峰 增賀墳 淡海墓 安陪社 栗原山 椋橋川 響石 日下社 盤余池 同所 甕栗宮 二階堂
 妙樂寺 飯盛塚 兩柳宮 用明天皇陵 薄墨櫻 崇峻天皇陵 香那寺 七井 王穗宮 稚櫻宮 天香久山
 聖靈院 加佐々山 若櫻社 東光寺 下居社 下居里 荻田寺 阿部文殊堂 土舞臺 市磯池 香具山離宮
 定慧墳 紅葉洞 等彌社 上宮 倉橋山 香那山 田寺 雙柳宮 安陪島山 文殊院 天磐戸



伊勢新
岡 新共衛

了3
5117
通番

竹林院
後坂
世尊寺
牛頭天王
遙谷
蹴ぬけ塔
大龍
龍泉寺
琵琶山
笙岩室
巴溪
菊窟

椿山寺
模觀寺
辰の尾
高等堂
岩倉谷
安禪寺
精吟小孫
鎧嶽
弓絃葉井
井光宅
旭窟
宮川
正善窟

布引櫻
中院谷
人磨塚
高城山
金精社
青根我家
白倉山
吉野皇居
釋迦窟
鷹窟
金剛寺
聖天窟

天皇橋
花久倉
子守社
躑躅正
金津嶽
苔法
無喜川
太刀石
影石
國見山
大岩原
鹽葉山
不動窟

柏本社
小牟漏岳
假寢橋
吉魚張
川上鹿鹽社
篁橋
隴浦
神明井
今本寺
嶋大神
安騎孫
願樂寺
笠本川

國栖莊
丹生祠
櫻本社
舟船山
橋井社
大河孫辺
多藝はの内
大河堤
薬水井
宇治向山
東孫
立興寺
鎧岩

耳我嶺
象山
箕箕川
榎尾山
宮隴
隴御門
遊副川
法真良塚
八幡社
吉野分社
秋孫川
隴上寺
高等墓

國栖山
象小川
花籠水
日晚孫
清河原
壬水隴宮古
夢回開
新漢南墓
比菰寺
丹治川
餅餅
土田川
名栖山

鳳閣寺
 後村上帝皇居
 丹生山 丹生川
 白銀嶽
 鷹巢山
 白瀑布
 稻色嶽
 燈籠洞
 池津内社
 四所祠
 七面山
 高隴
 仍者嵩
 黃金嵩
 春日社
 丹生社
 波寶社
 立川社
 嶽山
 朝鮮嶽
 將軍塚
 乾山
 藥師堂
 玉置山
 十二嶽
 湯原温泉
 倉隴
 鎮國寺
 丹生寺
 檜海迫川
 禪龍寺
 惣門瀑布
 天川
 池津川
 小壺山
 王置川 日社
 十津川
 中村祠
 無終山
 常學寺
 後醍醐天皇居
 櫃岳
 波比賣社
 乘鞍山
 伊波多社
 龍泉寺
 白飯寺
 荒神岳
 行團八布墓
 王垣内社
 小松山
 和田峯

寒那川
 瀧川
 瀧尾社
 小清水
 寶藏寺
 高原山
 風谷嶽
 憩息石
 林泉寺
 龍川寺
 池原川
 柳本渡
 山上嶽
 三浦社
 蘆瀨川
 天神祠
 芋瀬渡
 平維盛墓
 備後山
 小井隴
 沈崎山
 異像嶽
 芋瀬宅跡
 佐田川
 獨木梁
 山上嶽 王權現
 西社
 津納飛泉
 伯母子嶺
 温泉渡
 佐久間信盛墓
 出谷川
 小系嶽
 沈家社
 水分社
 竹原八布宅
 葛川溪
 上渡下渡
 黃精山
 川分社
 大清水
 山崎社
 白屋嶽
 西川
 伎後川
 海付社
 寶泉寺
 尼妙圓宅
 安曾川
 神山渡
 釋迦嶽

善鬼里

扇風巖

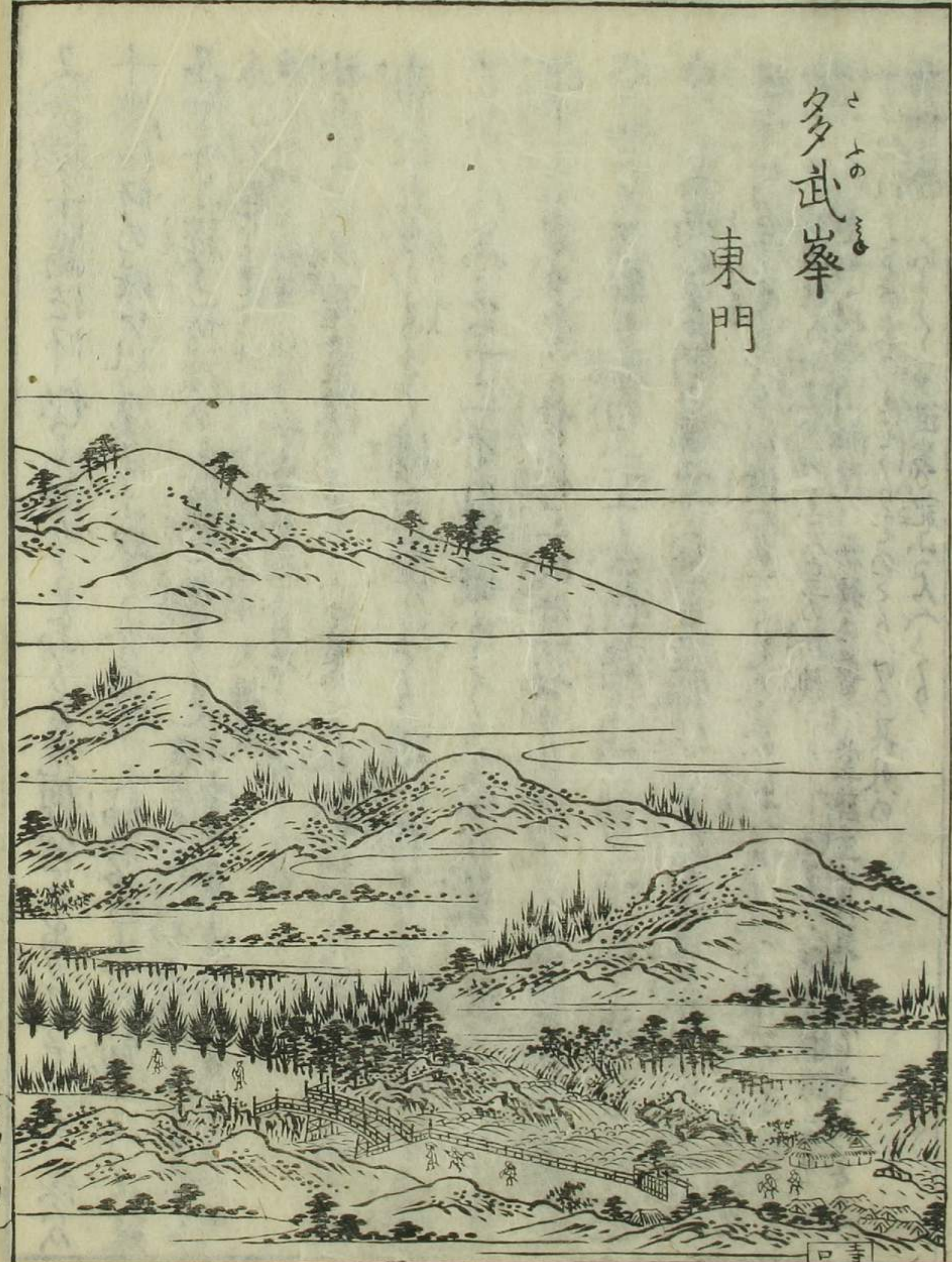
善鬼川

都藍尼

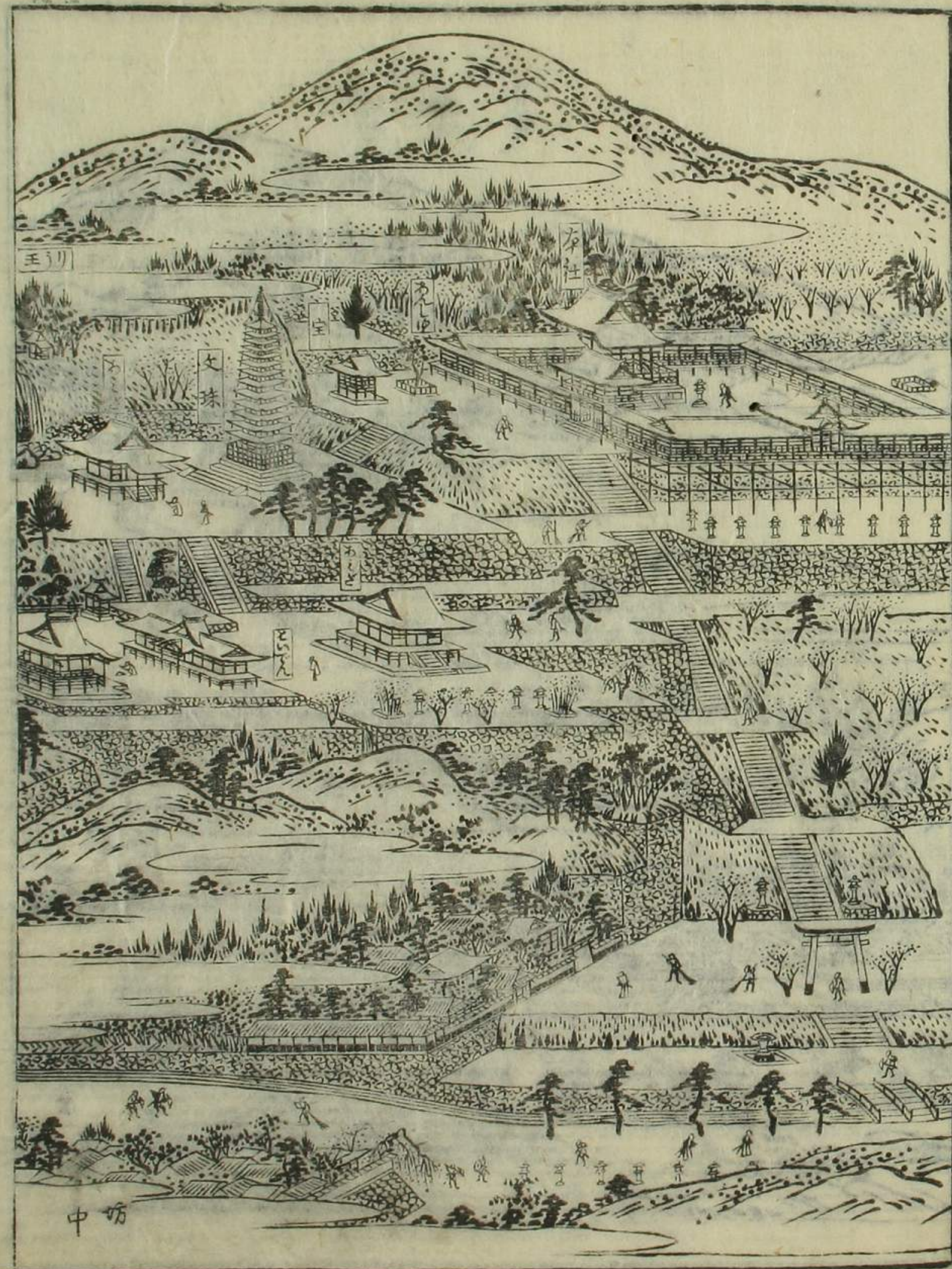




多武峯^{たぶの}
東門

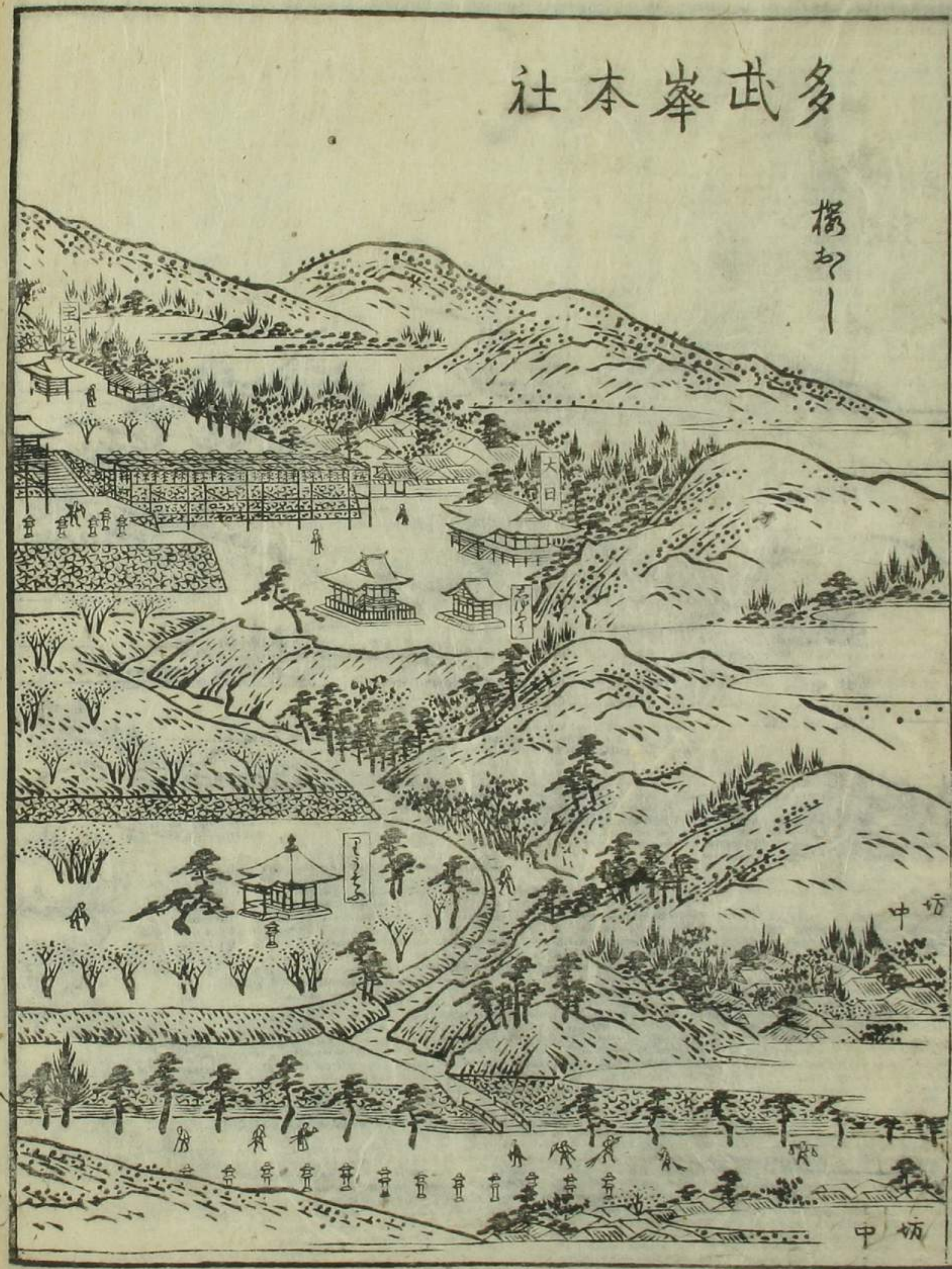


寺口

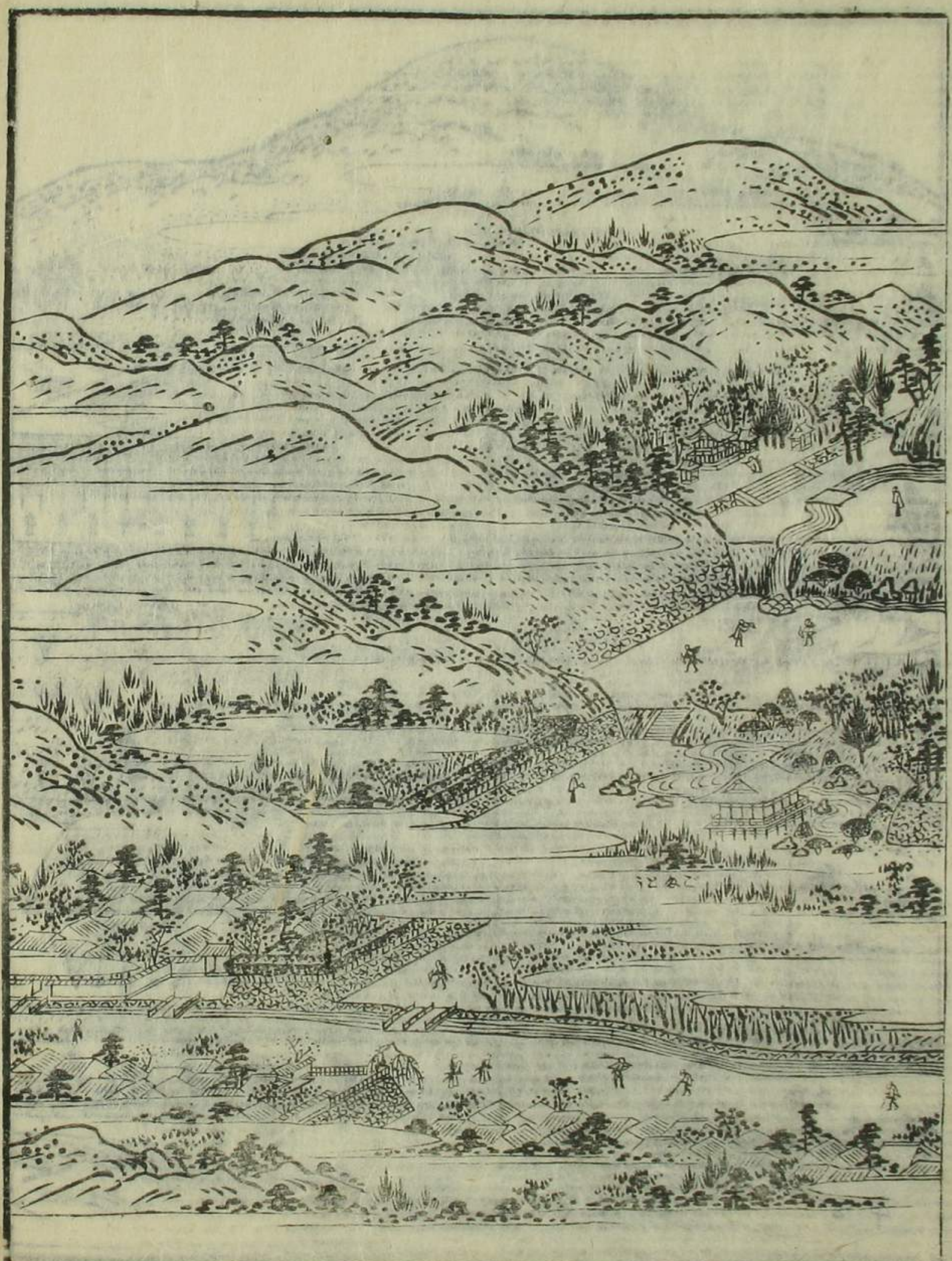
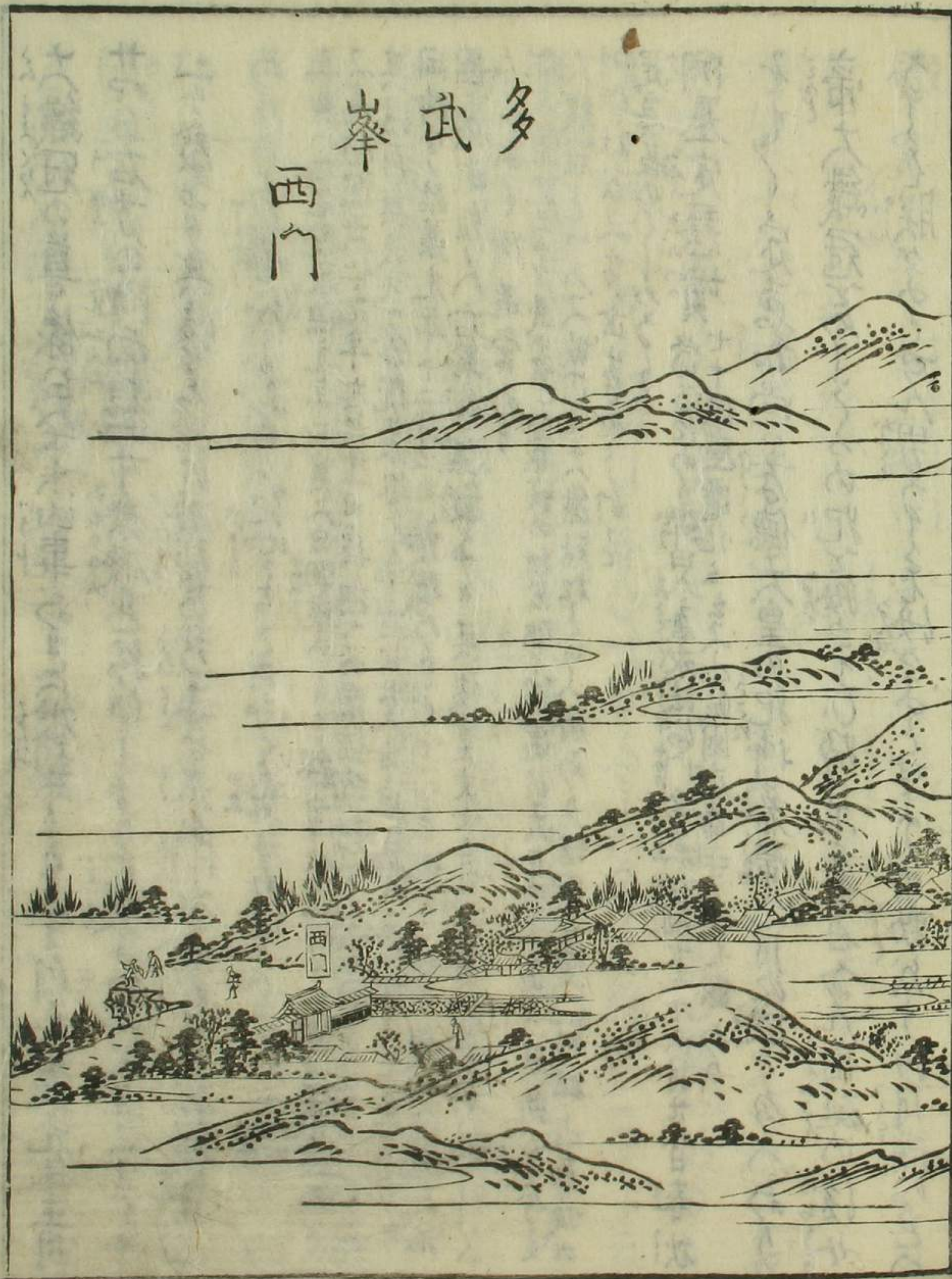


多武峯本社

撮却



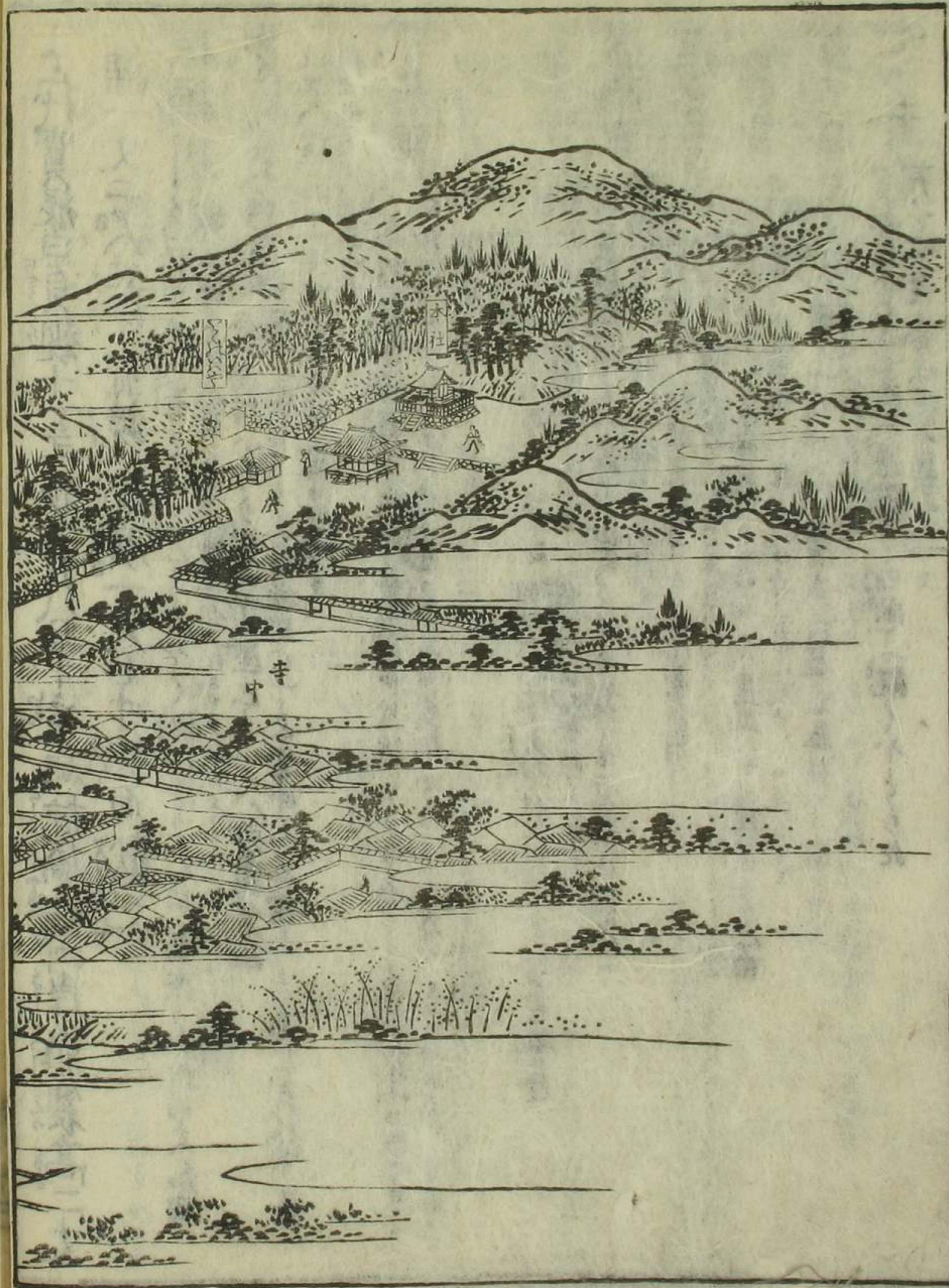
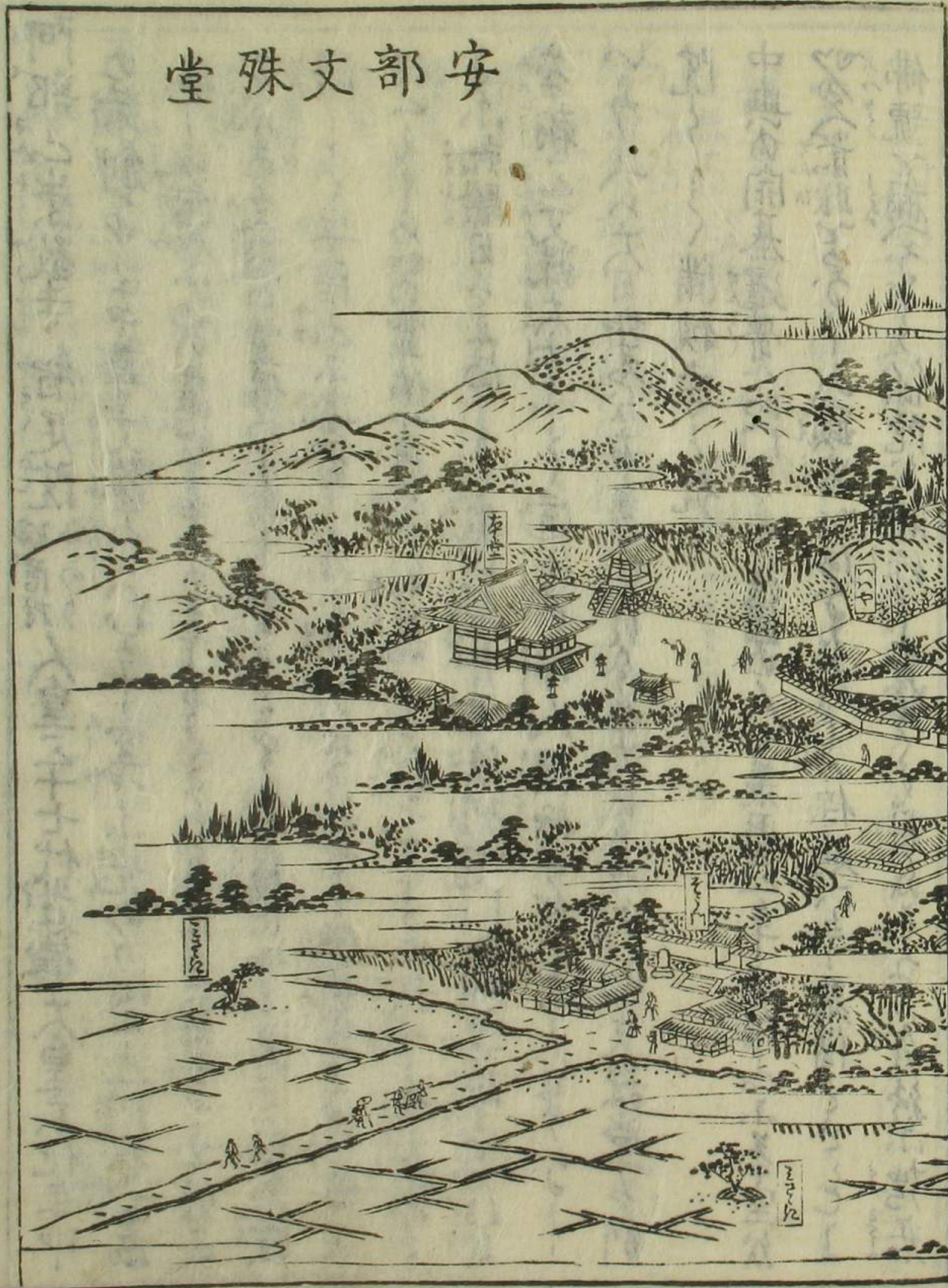
多武峯
西門





撰集抄目
 一、坊賀聖人の入
 いふをくりけりいひあつり
 けり道入ふかして香
 との根を仲堂ふ千々
 こりてけりいひあつり
 さふ実のんやをて
 たりけん中畧後ふ
 大和國多武岨
 けり所にさそを
 入く名詞権降
 のいひのやをかり
 けりふと居ん
 しむかへり
 けり

安部文殊堂





土舞臺 後村の村あり小えは岡ありと云ふ土舞臺と云り 櫻井乃所
土舞臺 後村の村あり小えは岡ありと云ふ土舞臺と云り 櫻井乃所
と云ふ推古天皇廿一年百濟國より味摩之と云ふ人奉朝せりみつゝ詞
出しく呉國の姓樂が舞舞と云りありこれより勅しと云ふ詞
あつた櫻井村ありと云ふあり

阿倍 夫本集小大和國又阿倍橋のまゝと云り
詞林採葉小云々

五妹子小不相久し馬下此阿倍橋の蘿の生はる

安倍島 勅撰名所集未和國云々

あづきの山に岩の行まきと云ふ今夜の月のさやけさ お家

風雅

玉晴乃あづきの山つは小娘孫まの川と云ふは夜に 續人志

都 都人志 都乃神もくつはあは安都の橋と云ふと云りて 大納言通具

甕栗官 清寧天皇般余甕栗官小市位一と云ふ日本紀小云々
白香谷と城上郡あり

稚櫻官 沈内村あり神功皇后二年正月般余一都一と云ふ
と云ふ稚櫻官と云ふ人履中天皇と云ふと云ふ

と云ふと云ふ 日本紀小

市磯池 沈内村ありと云ふ 日本紀百人皇十八代履中天皇二年

十月般余小皇居分造り給ひと云ふ十年の十月般余の市磯池

は沈内表の 兩枝舟と云ふと云ふあそびひいさおほみさし時と云ふ櫻乃

花ちりく清さるるさたうと云ふは花いつくよりちりまりけるそと云ふあり

しつん長真膽速ひと云ふたかろひありたが橋上の室と云ふあり

櫻と云ふと云ふありいと云ふらと云ふのふ直まを敷感ゆと云ふ稚櫻官

宮のなほめそりける 夫本 櫻ちる室の山風吹ぬと云ふ市磯の池と云ふ余る白波 定圓

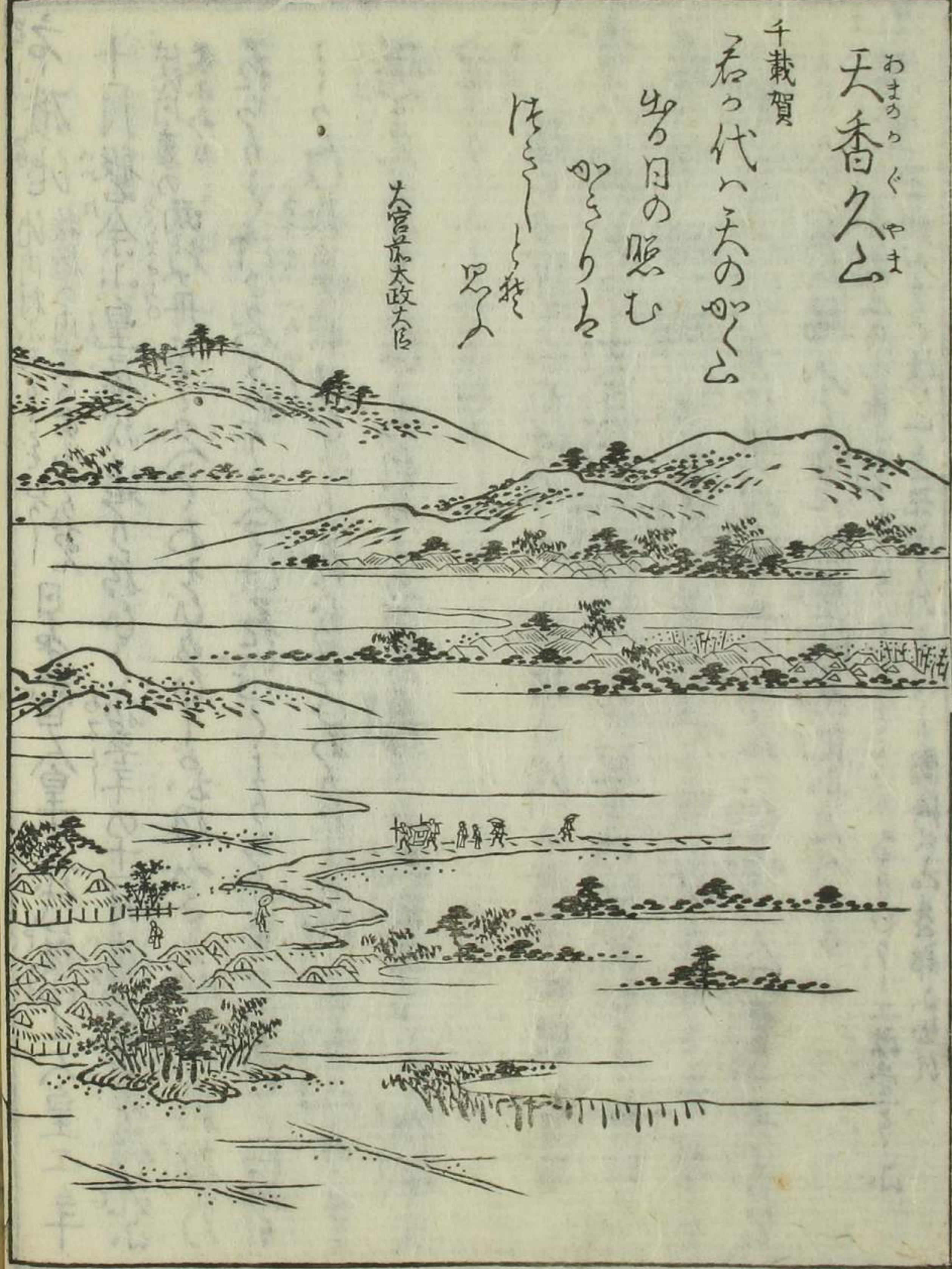
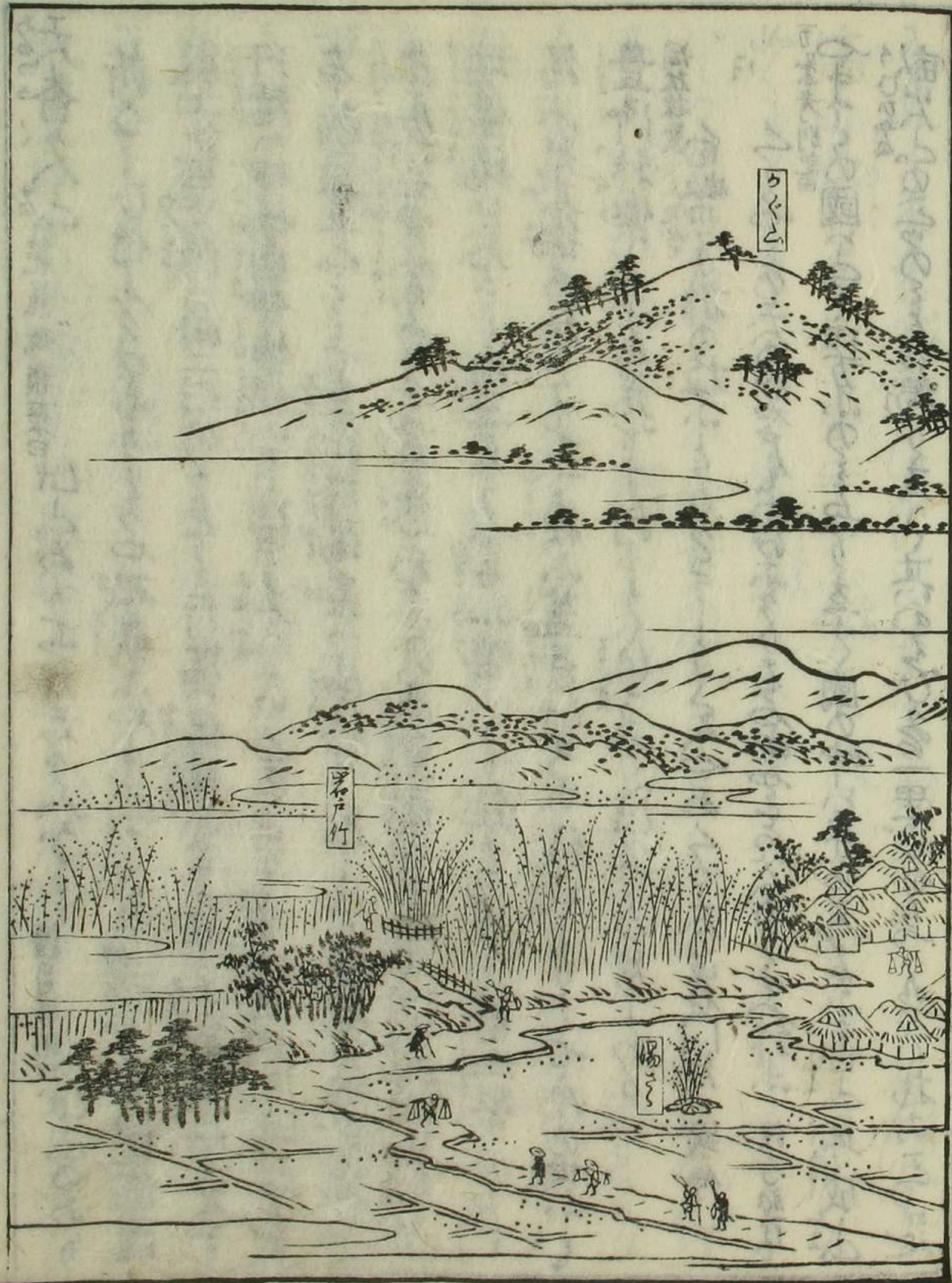
香久と興善寺文殊院 戒下村あり 天照を神は地におたかく秘法乃

要公現 國を福一民が益一若か真と故小甕かそり本尊と云

文殊大士あり安石の他之中典の筒基の隆俊上人又豊后秀吉公

より令旨公賜へと云ふ伽藍開基記小云々

二階堂 天香久との山表ありと云ふ 圖繪いと云ふ都ふ出



おまろりくやま
天香久と

千載賀

君の代へ天のめぐと

ゆの月の照む

おまろりく

ほろりく

おまろり

大宮加太政大臣

此の人なき香久と我いと云ふ人として小思ひなりとぬけ
園(り)くんけいしよるあしとくし集の中大兄命のこと此神
す藤原宮の神井の奇其外けしよる奇もさるる小思ひなりと
小遠ひか—こふふとりよるひとくし神の神いづもさるる小思ひ
こころぬのさるるんやそれと今も家もさるるも本かさるるあし
多く埋くん所り成りて悲しと思ひむくのやとさるる
らん状と筆さくしあし志のぶ人小侍人侍り

又或書三古老の目多武家の東にあつて高とあり俗にばさるる
殿小者村あり古来の天香久といはまねとのさるる今の香久といはひさしく小
うれむ低くさるるんや—何れの名所はくもむく—さるる今も
ちくむり—捨と—今も捨とさるる足かおりん天香久といは今のま
万葉
詞花
久方のあぬれくし出目もつら方と我と光さるらん 新院沖製

新古今

持統天皇

後醍醐

後成

後醍醐

定家

後醍醐

定家

後醍醐

家隆

後醍醐

正二位兼家

香具山離宮

天香久の和歌廿一代集の内九十首あり
香具山神社の地へ傳ふ圃苑あり神宮の泉といふ

天般戸

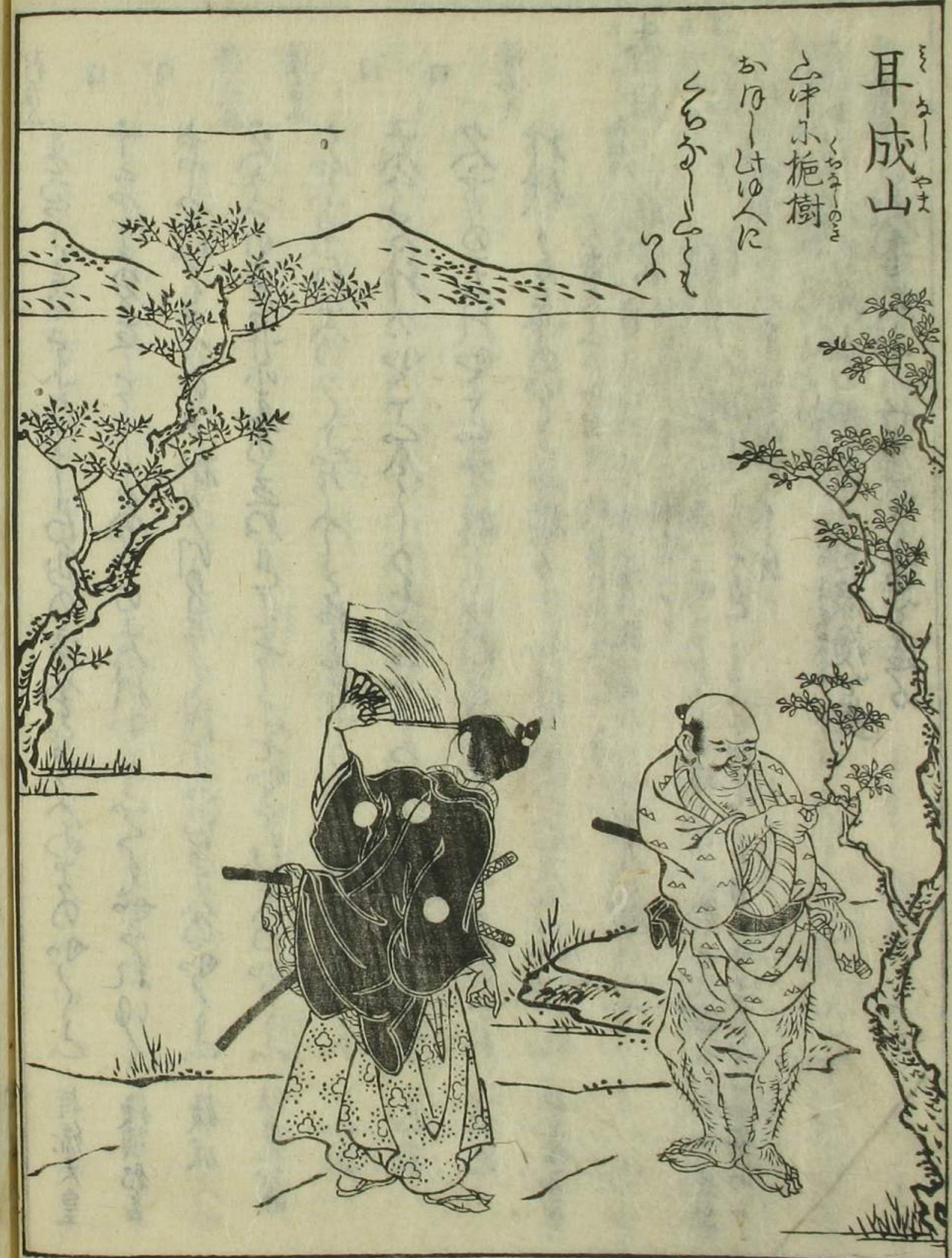
湯釜 眞澄法師の二所ありて浦といふ新し天般戸あり其ま
あふのいふ

元元集

天香久山の竹が吹く笛と造る

古語拾遺

天香具山の洞と取く日像鏡と鑄



天香山坐禪真命神社 香具山北の麓小あり本浦村小属と北浦村と称する石の華表の額曰天香久命社名此二代実録出

埴安池 日本紀曰神武奉天香久山の埴安池に坐す其時天香久命の御魂を埴安池に坐す其時天香久命の御魂を埴安池に坐す

畝尾健土安神社 本村小あり舊事紀曰畝尾村に坐す其時天香久命の御魂を埴安池に坐す

啼澤社 澤女あり社の通称と云ふ

哭入澤の神社 小の御魂を人の御魂と云ふ我王者高日彦彦命

畝尾都多本神社 本村小あり

膳夫村 安陸山より三軒あり其の御魂を埴安池に坐す其時天香久命の御魂を埴安池に坐す

吉備公別業 吉備村小あり大福村小あり

耳成 成無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す

耳無川 耳無川に坐す其の御魂を埴安池に坐す



耳成^{みみなり}の神社 耳無^{みみな}の神社 耳無^{みみな}の神社 耳無^{みみな}の神社 耳無^{みみな}の神社

耳無行宮 耳無井 耳無行宮 耳無井 耳無行宮 耳無井

葛本神社 葛本神社 葛本神社 葛本神社 葛本神社

常盤里 常盤里 常盤里 常盤里 常盤里

秋そとむらさきなれ里人 秋そとむらさきなれ里人

草根 草根 草根 草根 草根

梅小撰集小常盤山常盤社 梅小撰集小常盤山常盤社

猛田原 猛田原 猛田原 猛田原 猛田原

竹田神社 竹田神社 竹田神社 竹田神社 竹田神社

坂門神社 坂門神社 坂門神社 坂門神社 坂門神社

十市御懸坐神社 十市御懸坐神社 十市御懸坐神社 十市御懸坐神社 十市御懸坐神社

笠縫邑 笠縫邑 笠縫邑 笠縫邑 笠縫邑

十市里 十市里 十市里 十市里 十市里

拾巻 拾巻 拾巻 拾巻 拾巻

都京 都京 都京 都京 都京

風雅 風雅 風雅 風雅 風雅

千代神社 千代神社 千代神社 千代神社 千代神社

屋就神命神社 屋就神命神社 屋就神命神社 屋就神命神社 屋就神命神社

鏡作伊多神社 鏡作伊多神社 鏡作伊多神社 鏡作伊多神社 鏡作伊多神社

多神社 多神社 多神社 多神社 多神社

姫皇子命神社 姫皇子命神社 姫皇子命神社 姫皇子命神社 姫皇子命神社

小杜神命神社 小杜神命神社 小杜神命神社 小杜神命神社 小杜神命神社

皇子神命神社 皇子神命神社 皇子神命神社 皇子神命神社 皇子神命神社

多社 多社 多社 多社 多社

多社 多社 多社 多社 多社

多社 多社 多社 多社 多社

多社 多社 多社 多社 多社

多社 多社 多社 多社 多社



吉野郡 東へ勢別 飯高郡に及び紀州年婁郡の界に至る西へ紀州年婁郡の界に至る南へ紀州年婁郡の界に至る北へ宇陀郡高市郡十津川郡智乃四郡の界に至る

日本紀曰

神武天皇吉野小至る時光ありて井中より出る人あり

天皇より反問す何人ぞ對て曰臣は足國神より名を井光

とらふと則吉野首部の始祖なりとせ

小川瀧 吉野郡小川莊瀧村あり高見の嶽の麓に遠く村を國極ふ

洛陽清水寺舊址 或曰津川と吉野郡瀧村の小川なり名は清水あり

の舊址なり小流の延津の居居士を本津川の名上金を乃先ん

又清のち移すといふ津川とあり釋書よは淀川と云はれありといふ

高見の嶽 吉野郡平野村の東あり同名高見の嶽と云ふ嶽あり

天狗巖 獅子巖 冠岩 高見の嶽のあり

高角神社 今水谷村あり今水谷村あり

蘇嶽 盤谷村あり今蘇嶽と云ふ嶽あり

和佐羅瀑 蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

海部峯寺 蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

龍門山 山林遠く望むは蘇嶽とて昔々あり

懷風藻曰葛野王 遊龍門山

命駕遊山水長志冠冕冕情

安得王喬道控鶴入蓬瀛

龍門瀑 蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

龍門寺 蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

伊勢家集 蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

蘇嶽のありて長瀬上人は常小法師の徒に漢傳

らうらりの雨やうんとうんとううんとうあの人いそだたは雨を
ふくくあつといふ程ふくくあつといふ程ふくくあつといふ程
いそあつあつといふ程

たねいそあつあつといふ程

古今集小土の奇人載らとつりか或説云ぬら井のまじふ龍門
よりおつりける歌のうへによめることと

拾遺 アツりの歌

くおんあつあつといふ程のあつあつといふ程 中納言定頼

よひの月龍門のまじりく歌のりくきくこの箇れつと義忠が
それあつあつといふ程

よひの月を思ふとあつあつといふ程乃あつあつ 毎乳母

十載 龍門のまじりて仏室にゆきつはけり

あつあつあつあつといふ程あつあつといふ程 龍門法師

は あつあつあつあつといふ程

名寄 他人のむくこれあつあつといふ程あつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程あつあつといふ程 素性法師

願注密勘曰 いそあつあつといふ程のあつあつといふ程のあつあつといふ程のあつあつ

今昔物語曰 むく他人位より龍門のあつあつといふ程

むくあつあつといふ程のあつあつといふ程 龍門寺のあつあつ

空小飛りける 全文高市郡久米町の
下より詳あり

龍門溪 あつあつあつあつといふ程
末に立降する者降川小入 佛師院 あつあつあつあつといふ程

吉野山口神社 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

高杆神社 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

龍門山城 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

龍華臺院 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

烏宿山 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

龍門池 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

龍在城 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

大石持神社 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

拾遺 あつあつあつあつといふ程
あつあつあつあつといふ程

妹背山

貝原篤信 和州巡覽記

上り龍門の谷中入け地のはるのあやふ河
とほく妹背山とてあり飯田の方にあるが背山といふは古城の
形なる龍門の方あるが妹背とて東之足は妹背山とていふ
ところ同じ大さうり川とてあつてあつて相向つてあつてり古所
は流る妹背といふ所古所多く大付首のたつたるふ古所古所
ふよるあつて紀伊にふる奇あり故小原昭が神中抄大々を等々
妹背といふ紀伊ありとて古所下ふありといふ妹背といふは
紀伊ふある川中ふある流るり背山といふ妹背といふは
小人之日本紀孝徳紀といふ紀伊見といふは是妹背といふは
古今名所の多かれあつてりといふる多し古所の妹背といふ古所の
款ふといふは紀伊の足といふ古今のあつては流後拾巻の家
ふふといふは所ふある妹背といふ是といふは是より外は古所川
の末紀伊の流るるの向ふは流るるといふは

後撰

金葉

後撰

後撰

日

日

玉葉

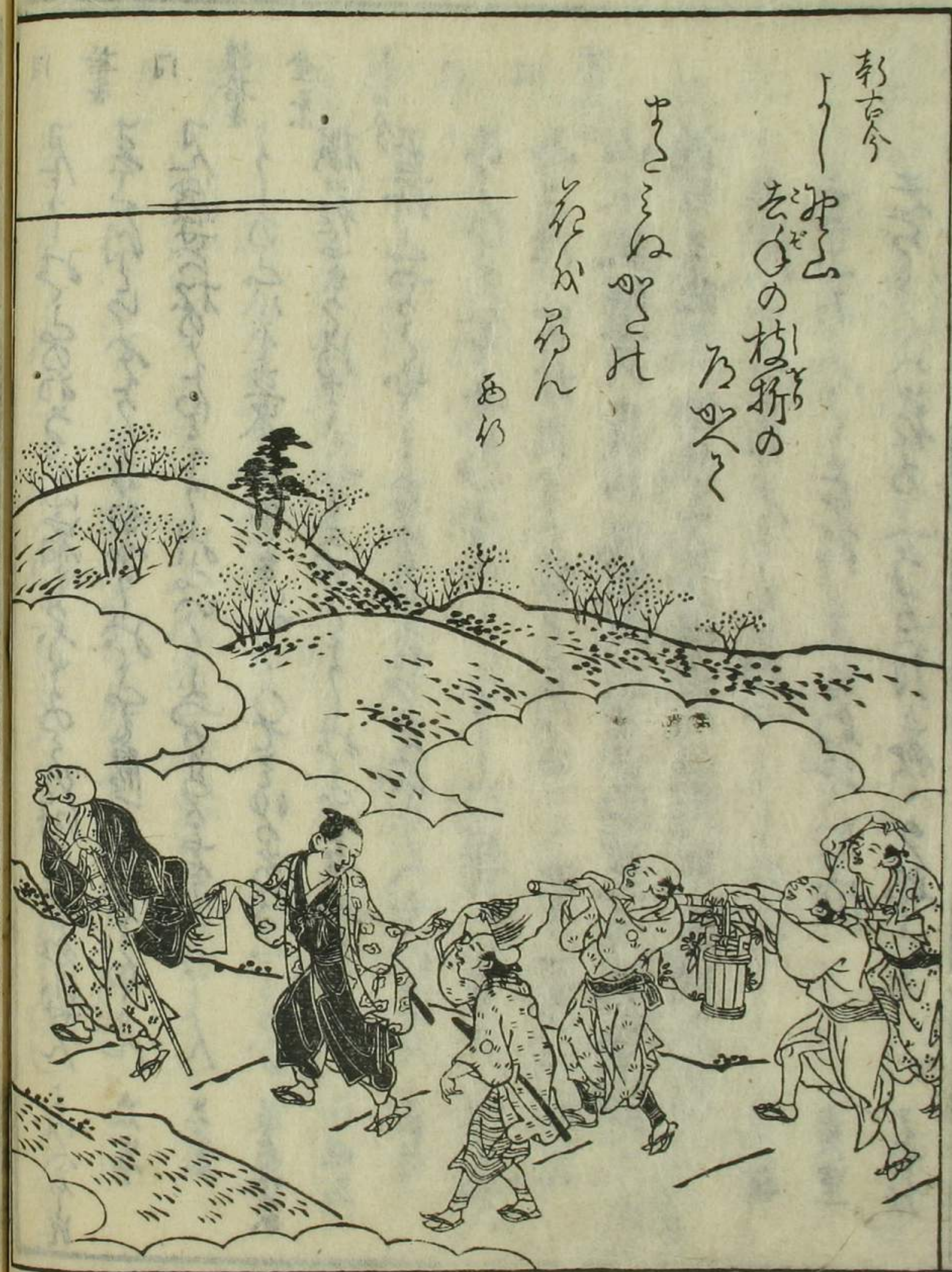
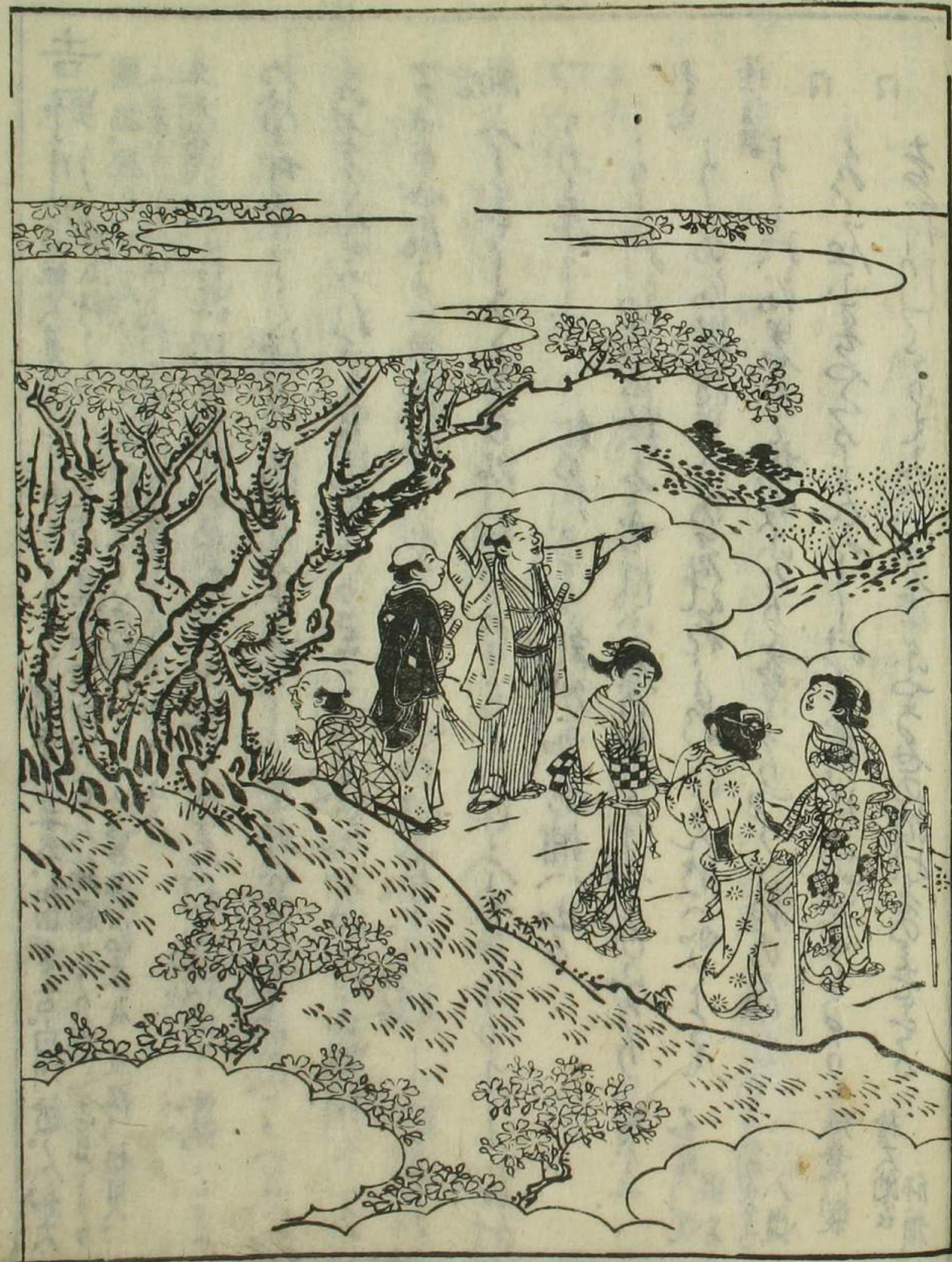
後撰

後撰

新撰

懷風藻

若しといふ妹背のふも秋はなと色らりるおは妹背ありといふ人若しは
妹背といふのわくはとてやとてむは房のふもふとてとてり 公實
あつては流の末ははるらん妹背の川中乃流は瀬 土御門院
川の流る所の川はといふは妹背の川中流るる 慈鎮
とて流るるむ瀬瀬も知と妹背川も立わさるるのむとて 糸織堂
とて流るるむ瀬瀬も知と妹背川も立わさるるのむとて 延喜寺
妹背川昔ふるの中うといふのゆされむといふは 尚子及系
流るるもいふはふるるを古所といふのむとては中流るる 彌子
とて流るるもいふはふるるを古所といふのむとては中流るる 初家
とて流るるもいふはふるるを古所といふのむとては中流るる 権守政
和藤原大政遊野川之作 從五位下陸陽頭兼皇太后宮亮 大伴連首 元明帝朝人
地是幽居宅山惟帝者仁潺湲侵石浪 雜沓應琴鱗
靈懷對林野 陶性在風煙 欲知歡宴曲 滿酌自心塵
吉野の記曰宮殿より十町より川下に妹背山あり妹背山といふは流るるのむとては
あつてりといふは細かなるは結ふといふは特個ふかといふは



吉野川 源大基源とよりかぐとく。鹽不兼。伯母谷。和田。多古。白河。破。人。大
國。極。極。極。東川。小。至。竹。舊。名。遊。副。川。古。人。詠。題。と。り。折。こ。ま。と。り
上。六。田。土。田。下。新。住。多。分。経。歴。一。く。智。川。小。入
和。州。巡。覽。記。曰。吉。野。川。の。水。上。は。石。を。む。む。む。の。ま。が。く。萩。の。下。流。と。よ
り。奇。の。こ。と。は。一。所。也。と。あ。る。う。ら。は。と。我。も。人。祖。而。風。の。東。
多。く。か。づ。ね。宮。川。の。あ。る。ま。ま。東。風。の。け。を。吉。野。川。乃。あ
ま。り。山。風。の。態。新。の。あ。ま。ま。と。心。故。小。東。風。烈。し。け。と。と
雨。の。ま。ま。と。吉。野。の。あ。ま。ま。と。上。下。り。下。り。は。れ
り。廣。く。末。紀。の。川。より。紀。別。和。方。浦。一。也。
古今。一。れ。海。岸。の。款。を。吹。風。小。屋。の。敷。え。う。ら。ひ。小。り。貫。之。
新。勅。一。の。海。岸。は。岩。の。あ。は。れ。た。ま。お。て。は。う。ん。波。か。く。と。も
後。後。撰。一。れ。海。岸。の。様。は。小。り。ま。ま。と。り。く。花。の。白。雲
日。一。れ。海。岸。の。様。は。小。り。ま。ま。と。り。く。花。の。白。雲
日。吉。野。川。乃。も。み。み。の。夕。暮。小。り。ま。ま。と。り。の。波。は。岩。の。ま。ま。と。り
檜。大。池。云。師。類。

猪養山 上。村。の。川。櫻。渡。池。田。村。小。あり
向。小。あり。吉。野。川。小。濟。と
ゆ。か。ら。り。の。お。ひ。の。こ。小。を。麻。妻。一。人。を。圓。と。思。さ。良。女
本善寺 飯。貝。村。小。あり。親。鸞。聖。人。八。世。蓮。如。上人。の。建。立。し。り。系。師。孫。本。願。寺。小
常。住。物。明。應。七。年。二。月
實。如。書。と。と。ん。く。り
芳。野。心。と。あ。る。川。つ。た。と。ま。ま。と。り。飯。貝。蓮。如。上人
六田院 六。田。村。小。あり。若。野。の。藤。小。あり。柳。の。宿。と。も。い。ふ
万。葉。若。小。園。目。の。ま。ま。と。り。吉。野。川。六。田。の。院。に。を。た。つ。る。也
後。後。撰。櫻。渡。の。ま。ま。と。り。六。田。の。院。に。若。法。と。り。け。と
大。宰。大。貳。本。家
吉野水分神社 丹。治。村。小。あり。每。歲。四。月。吉。野。と。傍。ま。ま。と。り。社。太。の。ま。ま
六。帖。行。意。い。ら。り。と。の。ま。ま。と。り。の。社。に。う。れ。と。ま。ま。と。り。か
一。之。坂 多。治。二。の。ま。ま。と。り。井。推。章。卿
生。野。記。一。の。坂。と。い。ふ。の。極。一。本。道。の。坂。と。い。ふ
こ。つ。り。と。い。ふ

三芳野の極一本道は、さきく山口を、白入表うあ
大納言 雅章

四の掛神祠 七曲の權

芳野の花のゆへにてうけはくもやこれ神の心かそしは 大納言 雅章

あふ分 神さるるさるの已凝敷みうけのあふ分さるる悲し

丈六の一藏王堂 一藏王の龍津願末とひとりの流之たり

長崎薬師堂 一藏王の松の茶屋

千本櫻 桜とり

富士と名花一時乃より一のや備 鬼貫 雅章

花さうり山と日さうりの物ぼるる 貞室

あれはく とさうりさのより一ゆへ

日本花 七曲の坂より入るまき谷への

七曲 是より多武峯の初巡遊記曰吉野と小中をみる六田

花の園 花の園の櫻田は谷をよりふははと松みさふとの井あり

みうけ みうけ家の花園風吹く梅葉ふくりるまの夜乃月

吉野記 吉野の山と井れつら踏むる花の心ひききさるん

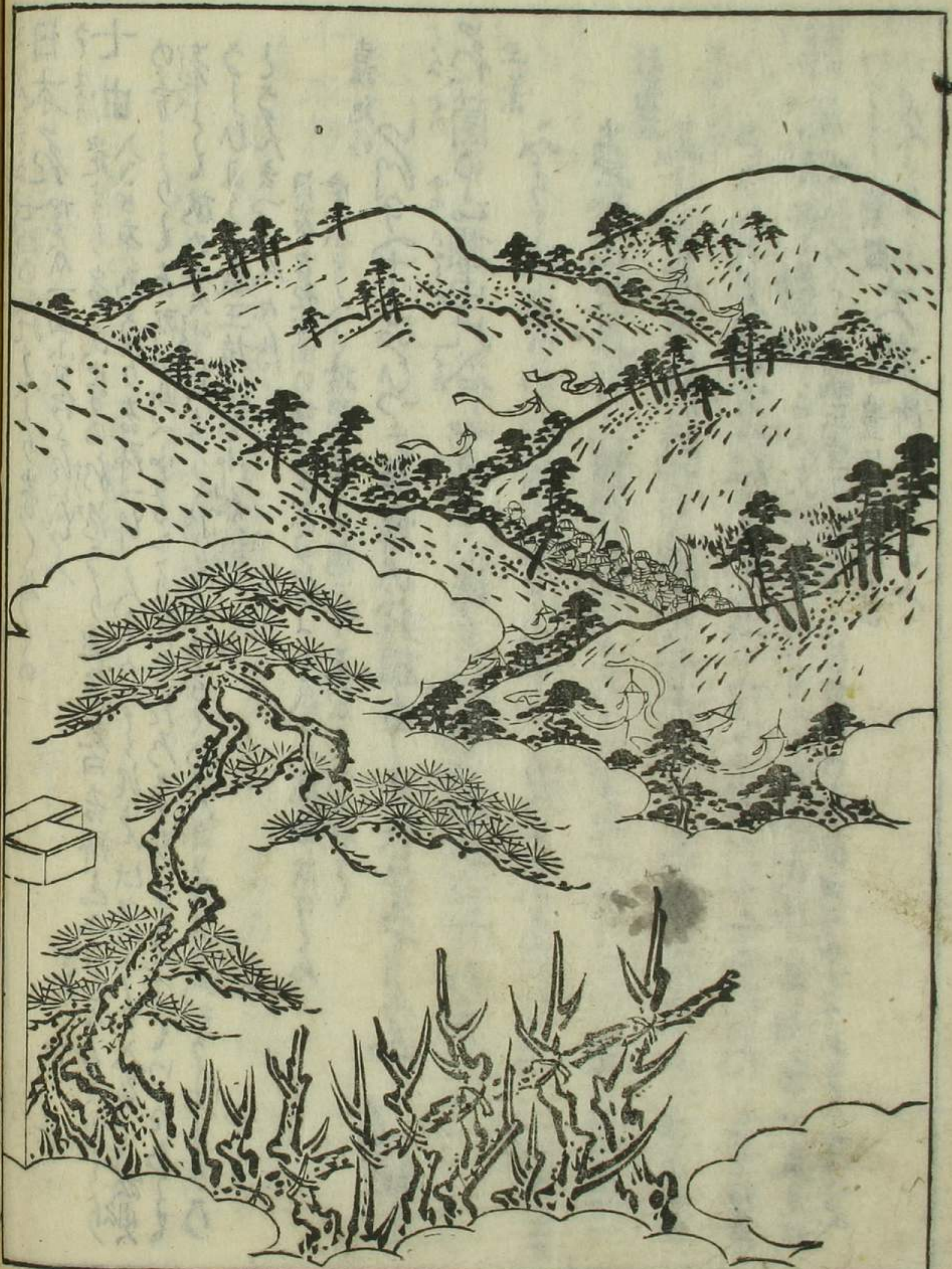
藤尾坂 俗小若井坂といふ文治元年十一月十七日源義経の愛妻若尾坂

大橋 豊臣秀頼の

東鑑 大橋 豊臣秀頼の

大橋 豊臣秀頼の

元弘三年正月十日
 大塔宮を去れぬ
 六萬餘騎を後にし
 攻めたり大塔宮の所
 小立矢の七海血の流るる
 義輝あり新上り
 官の所あり
 故に殿を安くと
 蔵王堂のちり高き櫓
 に上り後十文字に極切て
 依小川の邊に奉朝乃英
 雄の記信



櫻嶽

右ふあり

金鳥居

額を發心門とせし弘法大師のまより

二天門

金剛力士の二天門

後未教光

金峰山寺

六田より櫻嶽の北

本堂藏王権現佛量二丈

脇士九

觀世音

二丈八尺 右弥勒二丈 後行者遺像が安坐は是當との因基

あり其外觀音堂講堂僧舎四十一區吉水院實城院を俱り

後醍醐帝の御宮へ大塔の址を本堂の石礎あり兼曆二年

十一月金峯との塔供まのの釋きうんくとり藏王権現に定朝調

進す柏大殿の上小啖合々大なるあり威裏記小せりり

又貞和三年正月十日然後寺師泰武藏寺師直者ある所小帝へ天

川の奥賀多名のを京落さるいりてを焼拂へて皇后御

相言安の言所小なるけり後小式大入尺の金を右金剛力士の二階

の門北拜天神社七十二間の廻廊二十八折ろくひ小藏王堂一対小々入

アとよりいと古平記小入くより其より年経く豊長秀乃吉公の時

諸堂をせり成就とせり

威徳天神社 本堂の右 北拜天満宮へては天慶元年八月

一日日藏上人金峯との岩窟あり威徳大政天の信を小あり

神勅小志をひく菅神の所信所小至りて移くの神詔を蒙り我名

を唱へて存く信守はつとてりて擁護とて示現ありて上人を

金峯の小所を當社に造立し威徳天神宮と撰めたりし

釋き小入くより千跡地藏尊の志心傍那の作あり天神社の信小

あり又稻荷社蛇子大黒天の社あり四本の極へ藏王堂乃す今り

ありて大塔宮をせりて練樂を奏しぬいり所とて

四本のこころ小跳鞠の興かありひせり

吉井記り 是りの場小く川へて今もて若所の四本の極おるひりて

花考井 雅草



吉野山 六田飯貝より
 大家小藤に至る

新拾巻
 今へこれ

川波さし
 みよき

六田北 淀の

六月雨乃

義詮

此方へ門下
 されは家公
 くへしあ
 又はゆへに河
 とせられ
 ころり

菅正
 六田

六田

上川

市上

下川

高城

町田



散々
谷々
真つかむ
淡々

千本橋

七曲

千本



千本橋
日本橋
あつた

漢千載

のこ

岩龍とて

り房の

つとふ

あつた

の

まゝ

中宮

茶師

中

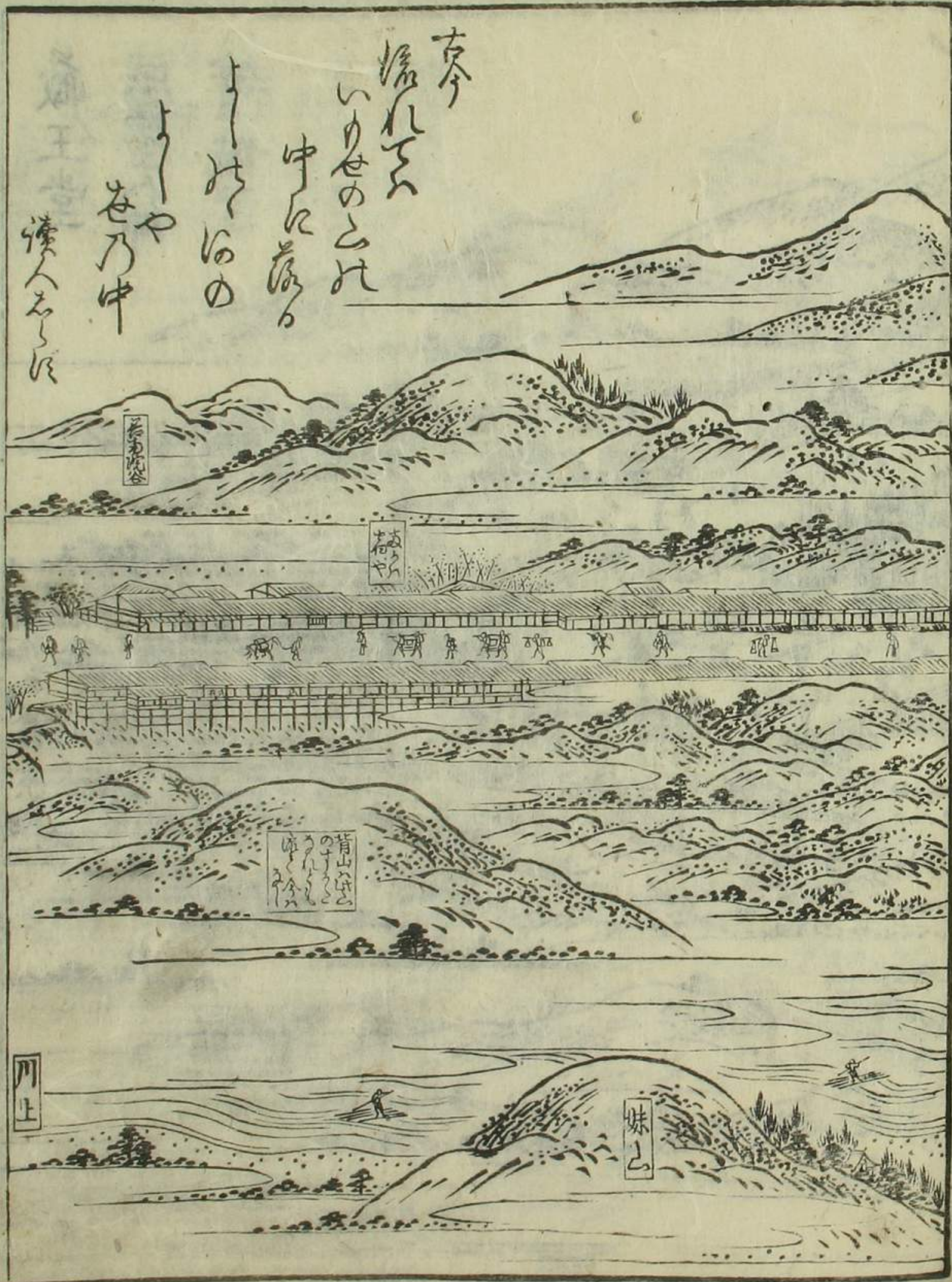
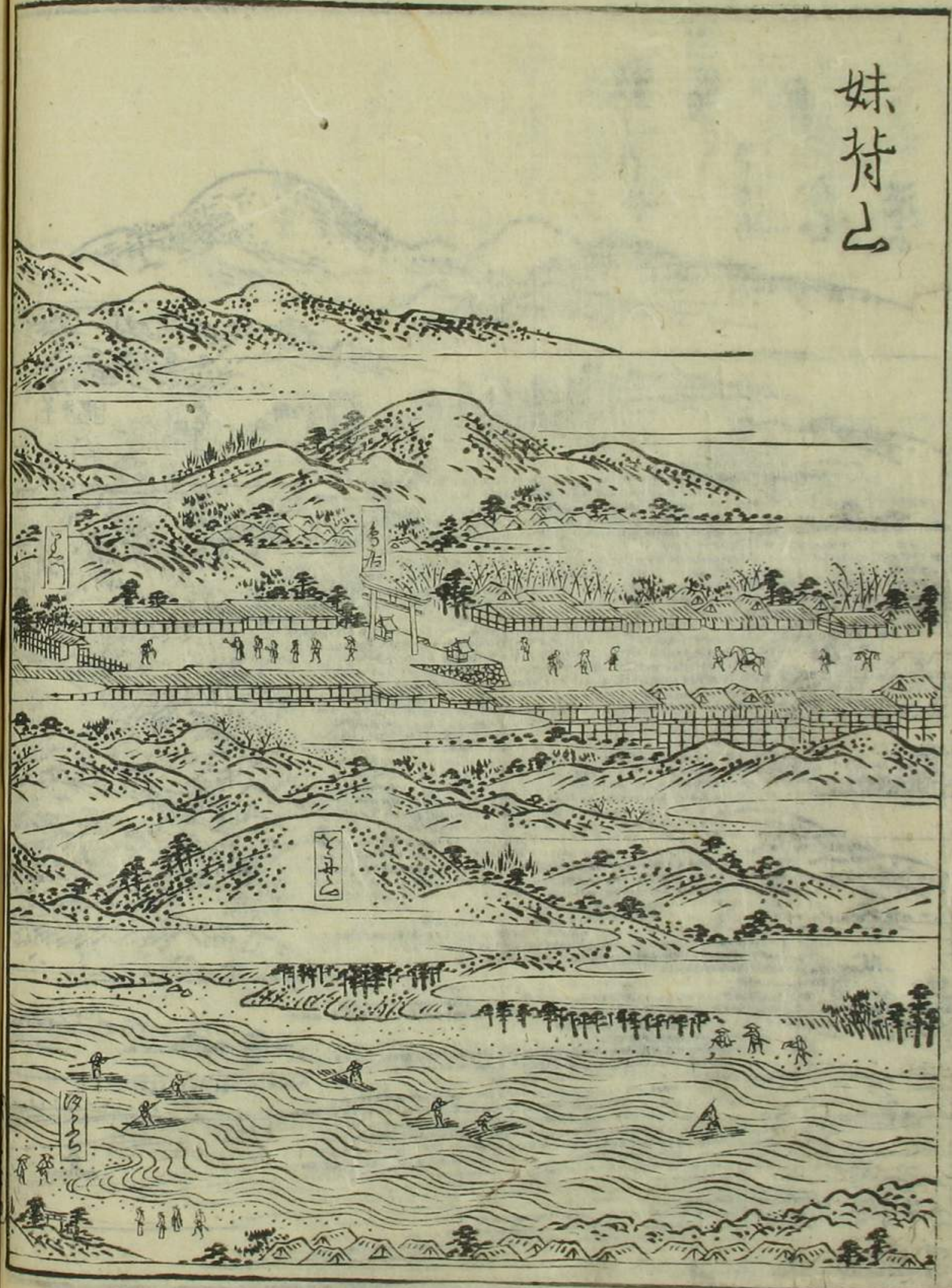
千本

社

千本

川

妹背山



古今
懐れん
いれおのこれ
中なる
よき河の
よしや
在乃中
漢人なるは

山

村

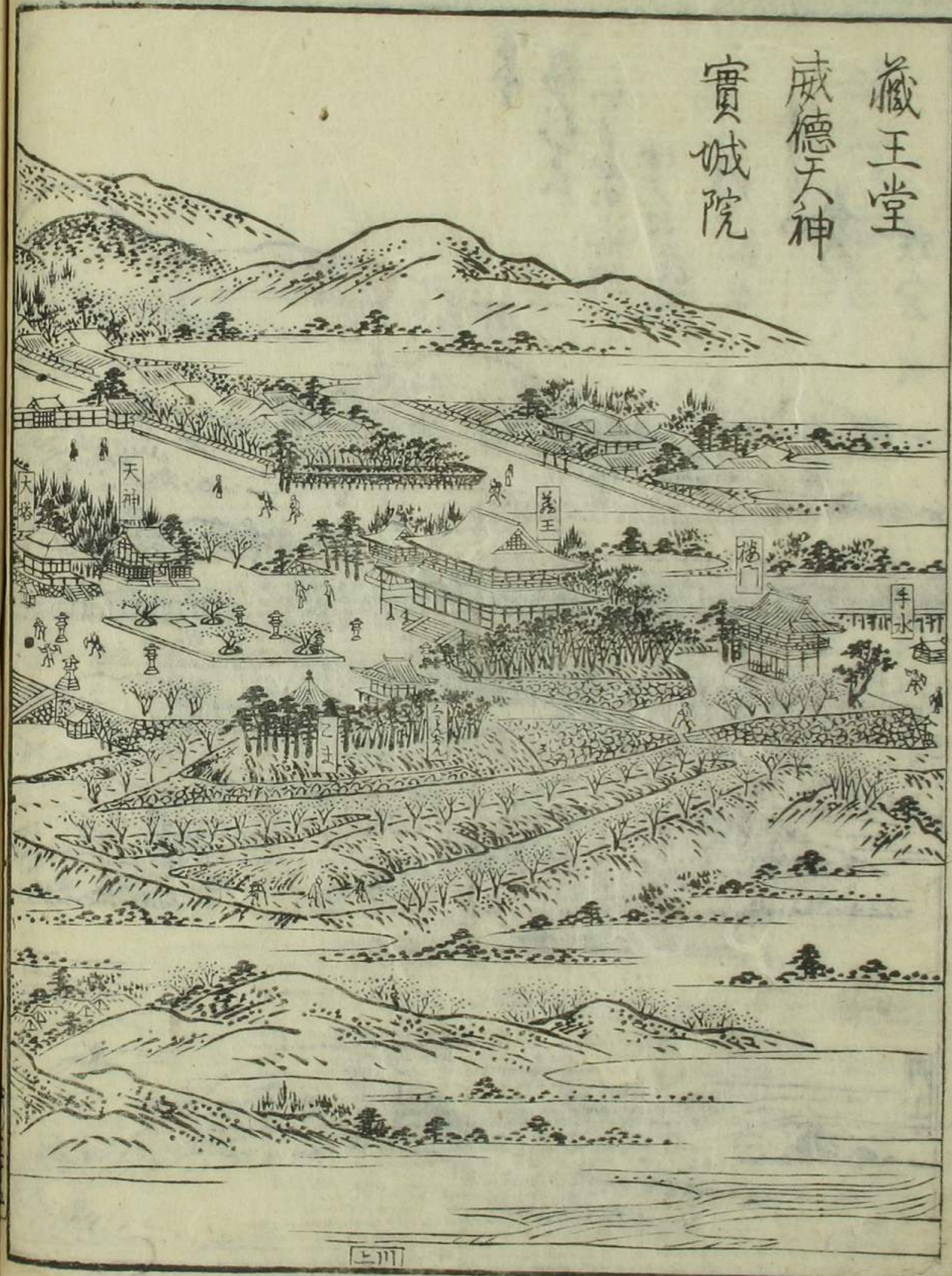
青山山
のり
ゆき
ゆき

川上

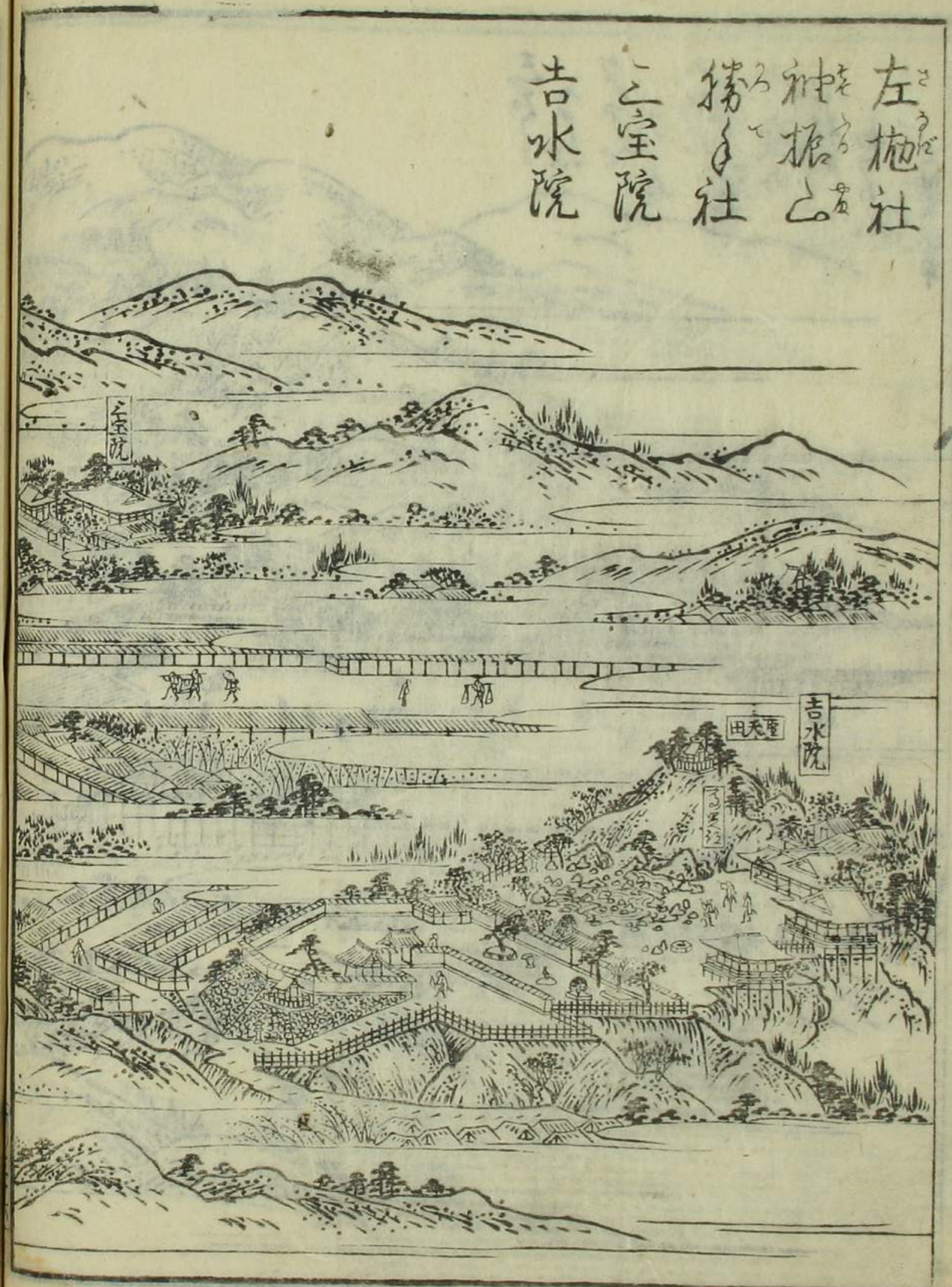
妹背

山

山



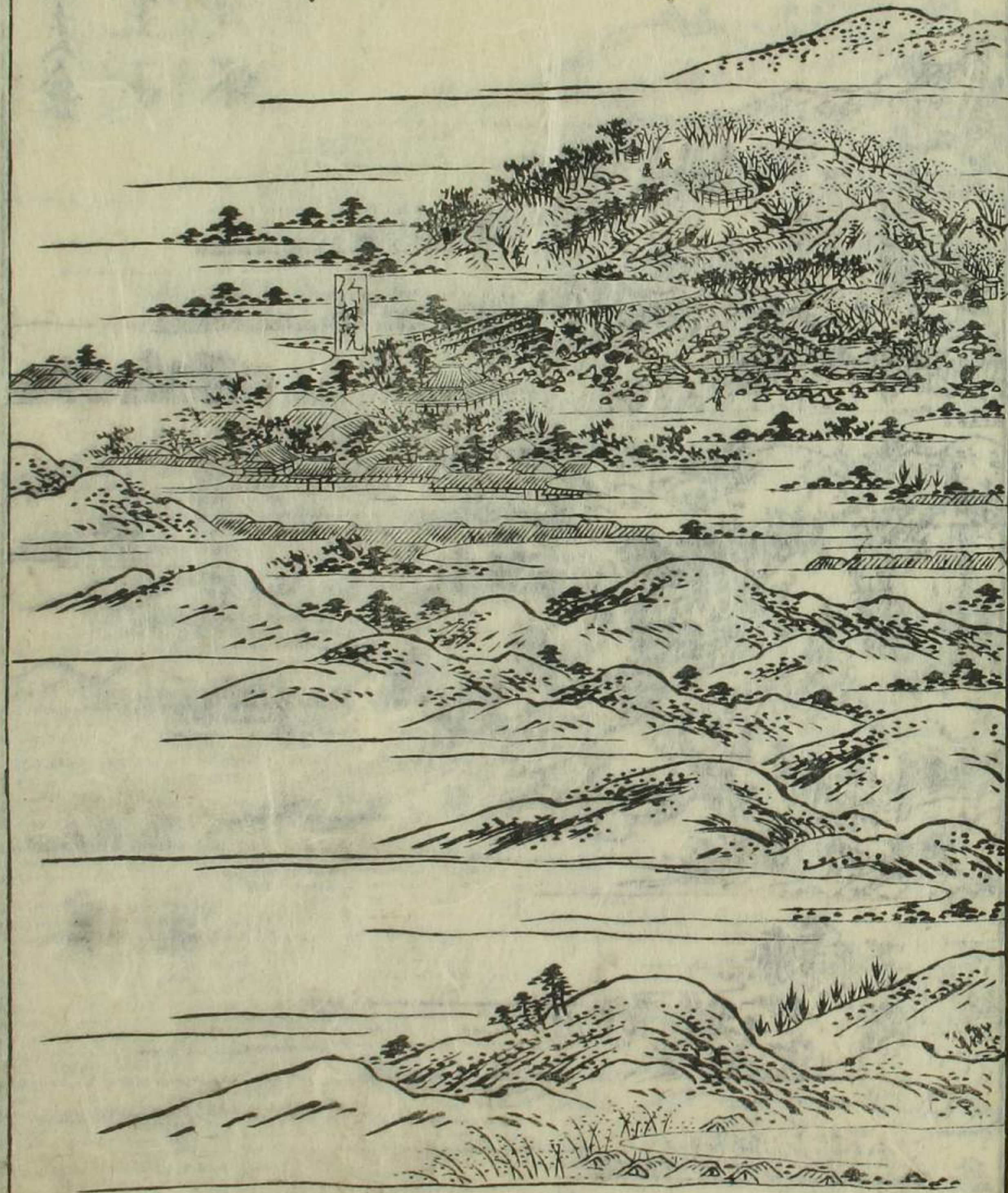
左^さ施^せ社^{しゃ}
 神^{かみ}振^ま石^{いし}
 辨^{はん}子^こ社^{しゃ}
 空^{くう}院^{いん}
 吉^{きち}水^{すい}院^{いん}



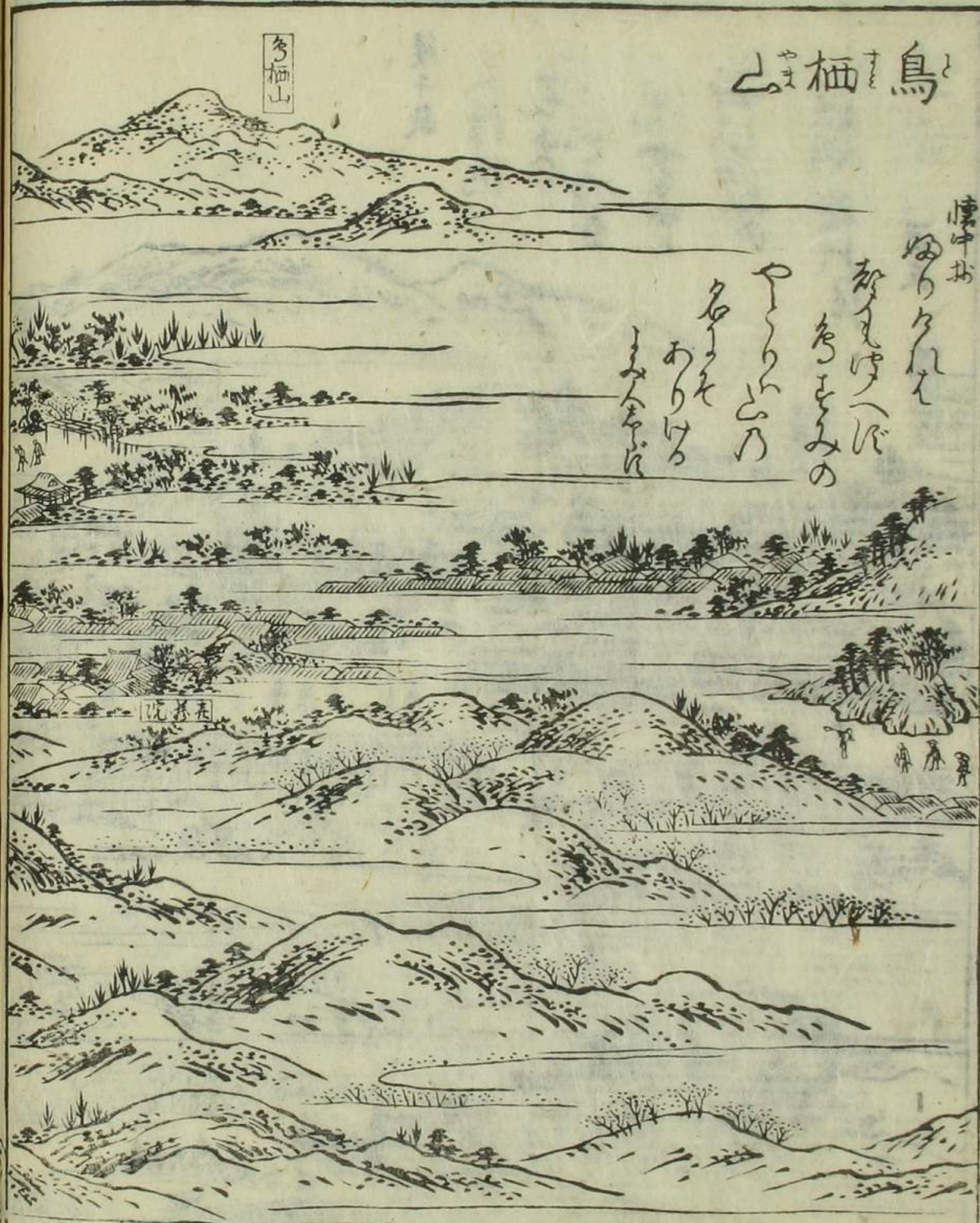
續千載
 大津風
 吹^ふ 吹^か
 乙^{おと}女^め子^こ
 神^{かみ}乃^の石^{いし}
 秋^{あき}の^の疾^{はや}此^{こゝ}月^{つき}



竹林院



鳥栖山



懐中
ゆりくね
都々逸一匹
あまみの
やうりん
あまの
あまの
あまの

沈黙

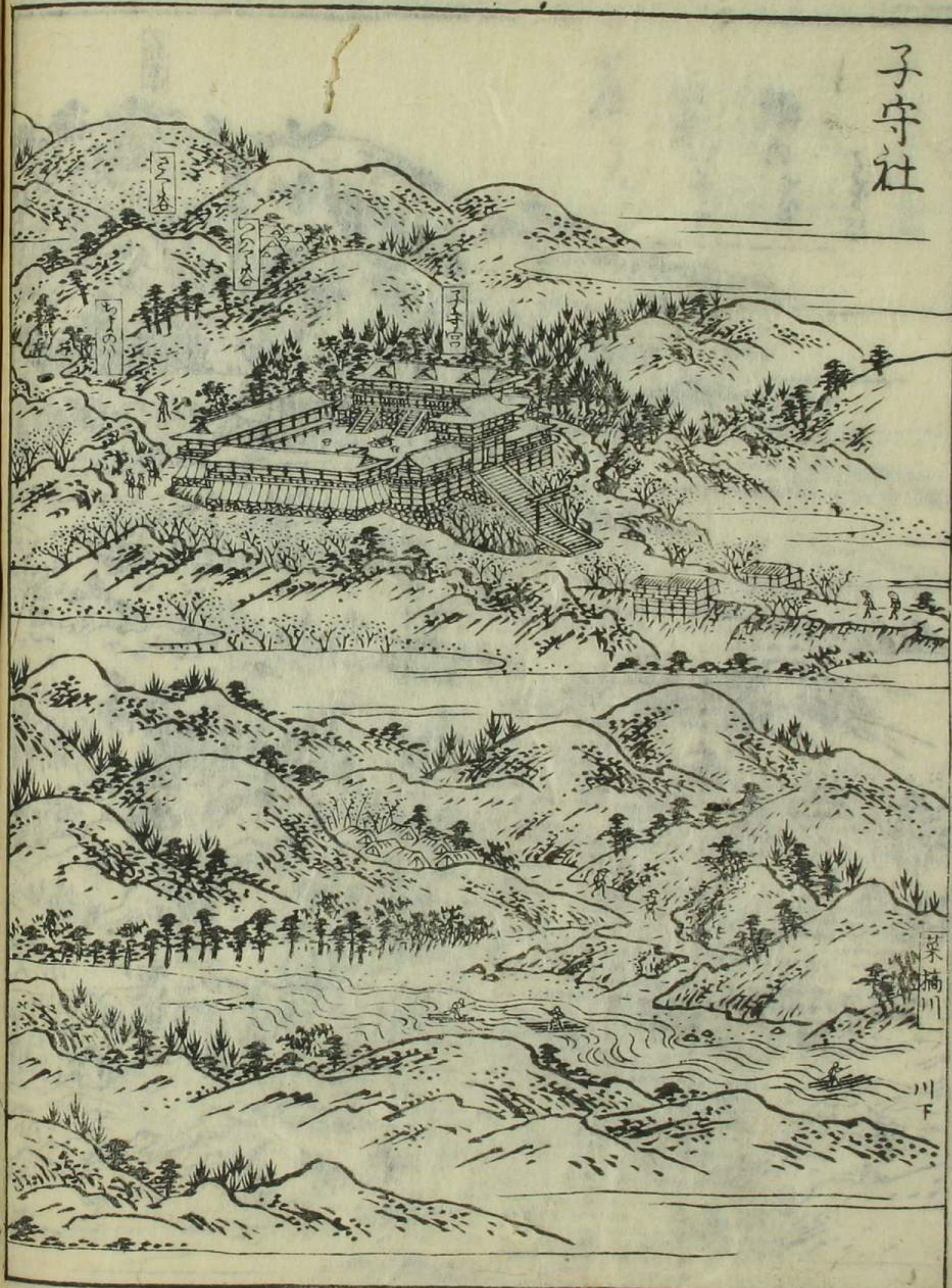


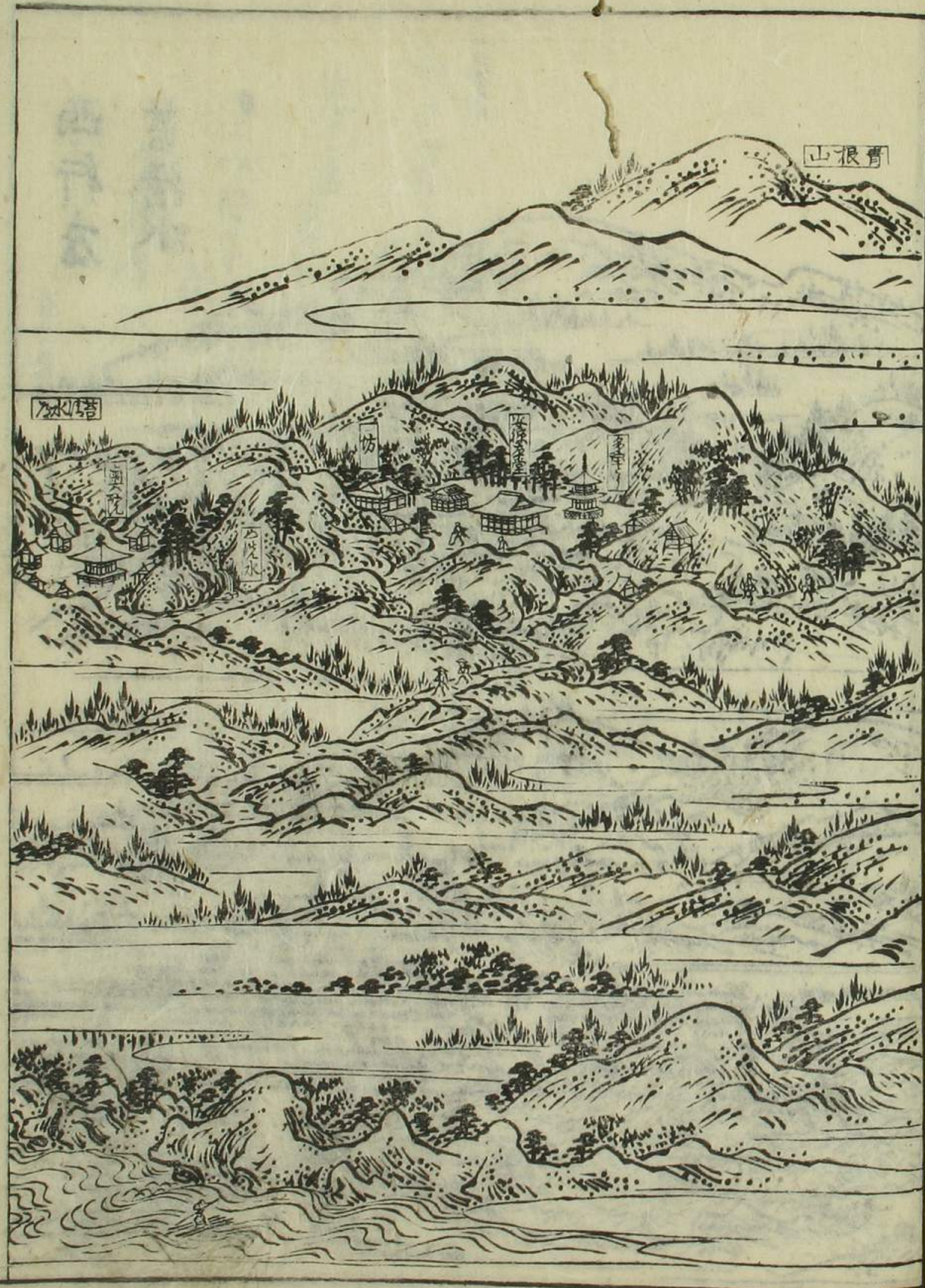
八王子
の
山
の
景
を
見
る



八王子
の
山
の
景
を
見
る

宮
瀧

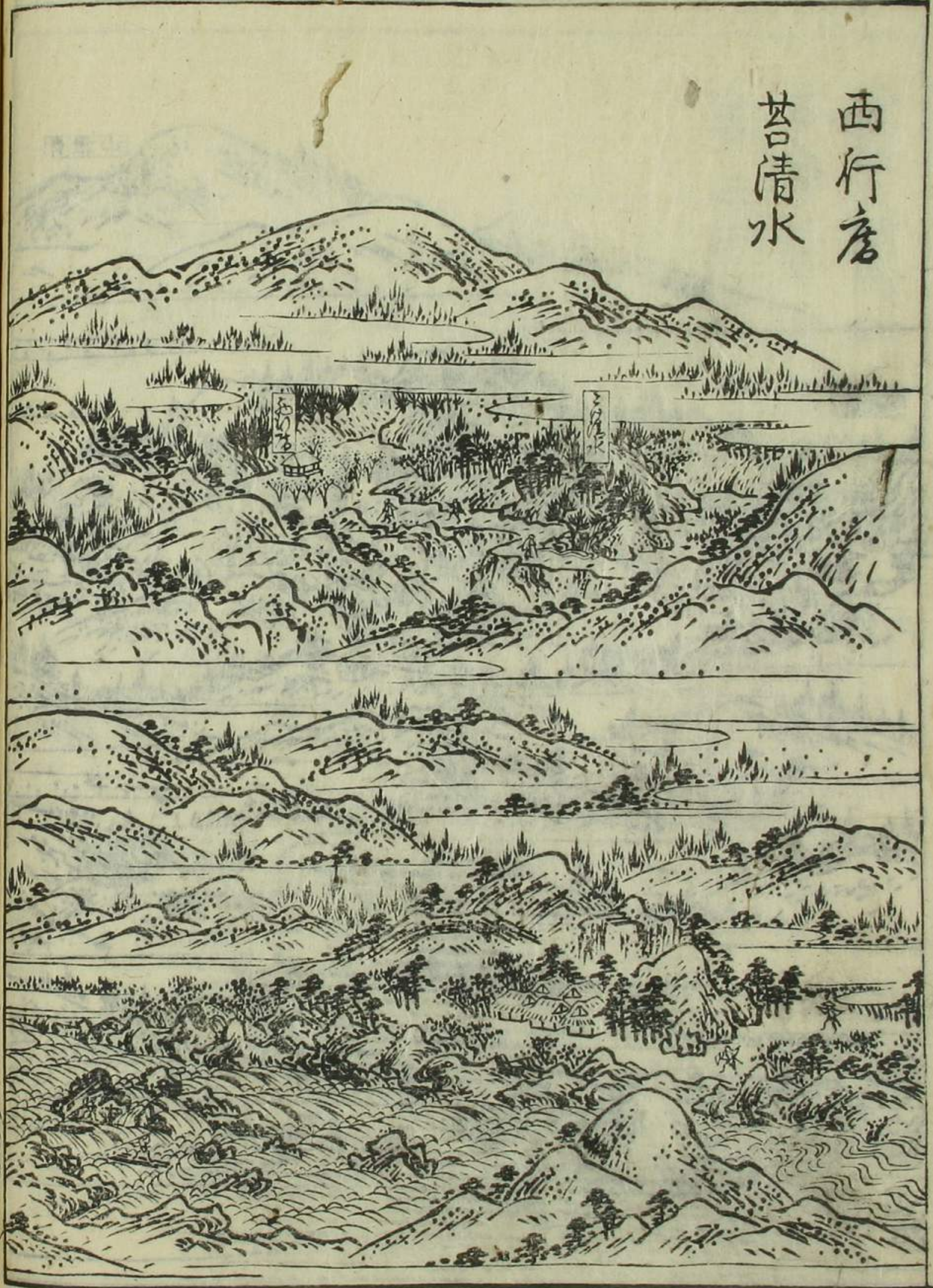




金精大明神社
安禪寺
奥之院



西行彦
苔清水



山家集

少々々々々

落

岩乃の
苔清水

くみゆき

福

うたげわ

西の法師



上川

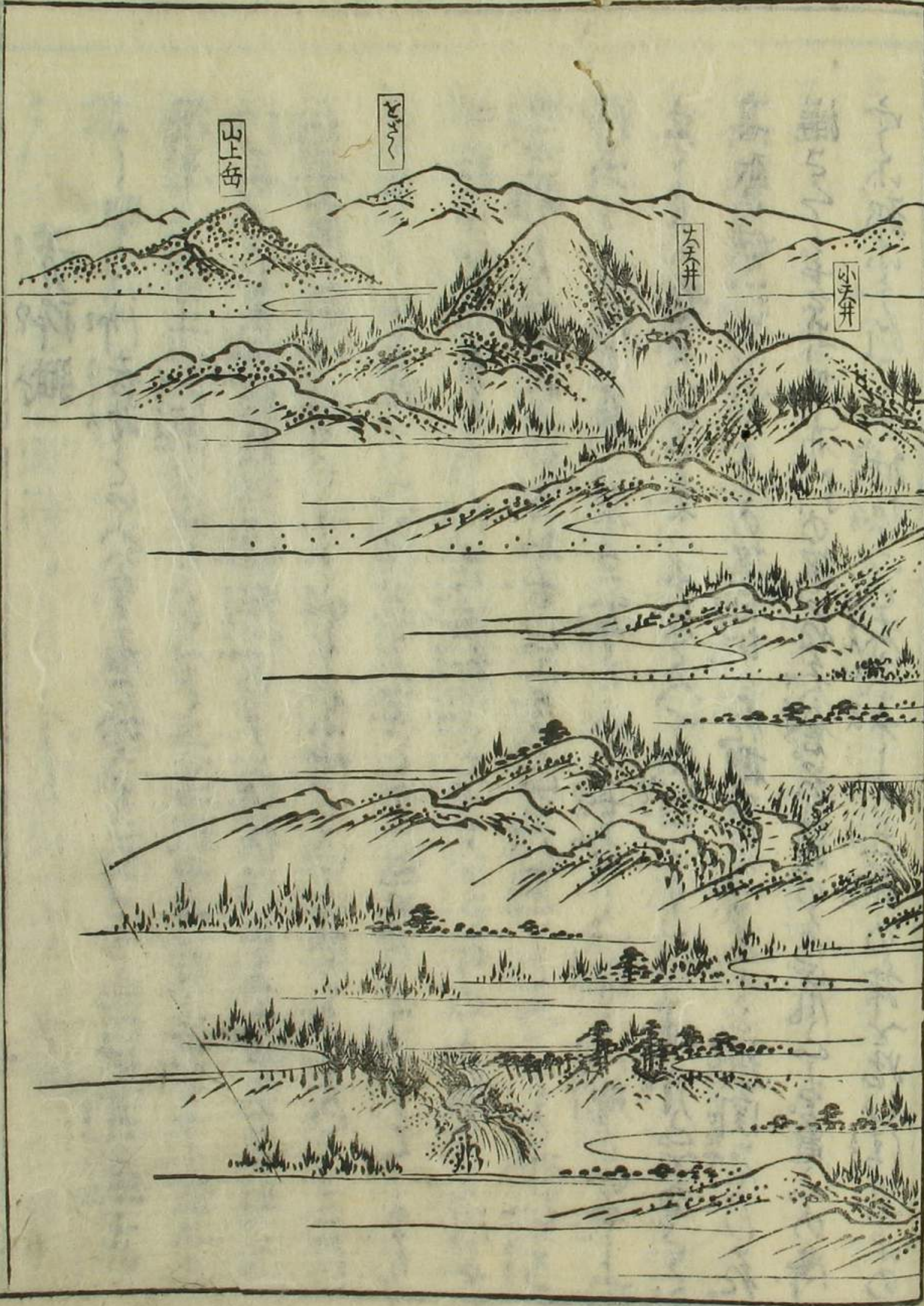
天



大奉山七卷



清明龍





延尉源義経公の愛新
 縁清海に掃ゆの神あはて
 法樂の松の奏衆徒
 のころと落し義経は
 従十二騎とあやハ松に
 又と利どして勝ん人々
 さらん六韜文伐の篇れ
 真んまくとあいつこさ
 とのれ



實城寺

藏王堂の乾のついでに

又の金輪さうもいつ建武二年より

後醍醐天皇宮居小さくは北朝と南朝とわつと三年號

兩朝より出さくは天皇勅しと勅系和を集とえつと

又所より茶入十二かごと冬移入或は廿一世小金輪さうもいつ

漆器といひふぐと勅化めくはと金輪さうもいつ

あもわりと心南朝翌五十六年の所皇居の地と其時乃皇

居の化しもうと其後めく殿屋は築より常の清社あり

帝ある時ややりの所を承伝めめい

かぶささびとつとまきとれ若孫のおれ八月雨のそ後醍醐天皇

横笛一管銘七 執笙二管國軸九 羊皮鼓一面後醍醐帝の愛器

南朝興國二年北承暦 執帝上後村 若孫と帝都ととつと

閣さく月卿と文微おめく昇進除目給断絶せん

二月下旬源親房常陸小田城小居く藏系抄二巻を能く若孫

献せざる百官諸位職掌の如く末代小至つと帝都の龜鑑と

いはいく親房卿博識宏文めく今東國小在く文藻一社も

不從と轍ととん若ととの只凡魚のおよふ所小ありと

吉水院藏王堂のよりの町より 當院は後醍醐帝の仍宮めく建武

元年二月の遺券呈文あり又正平弘和元中明德の年間賜入

祈の繪旨小及び射智筒井順慶等の願文あり拵けちのそ創る

役行者と上依りの時姑息の房室と其後醍醐の聖寶を所也

くは蹴ふかとめめ人加之源平兵乱め源義経每慶とと小

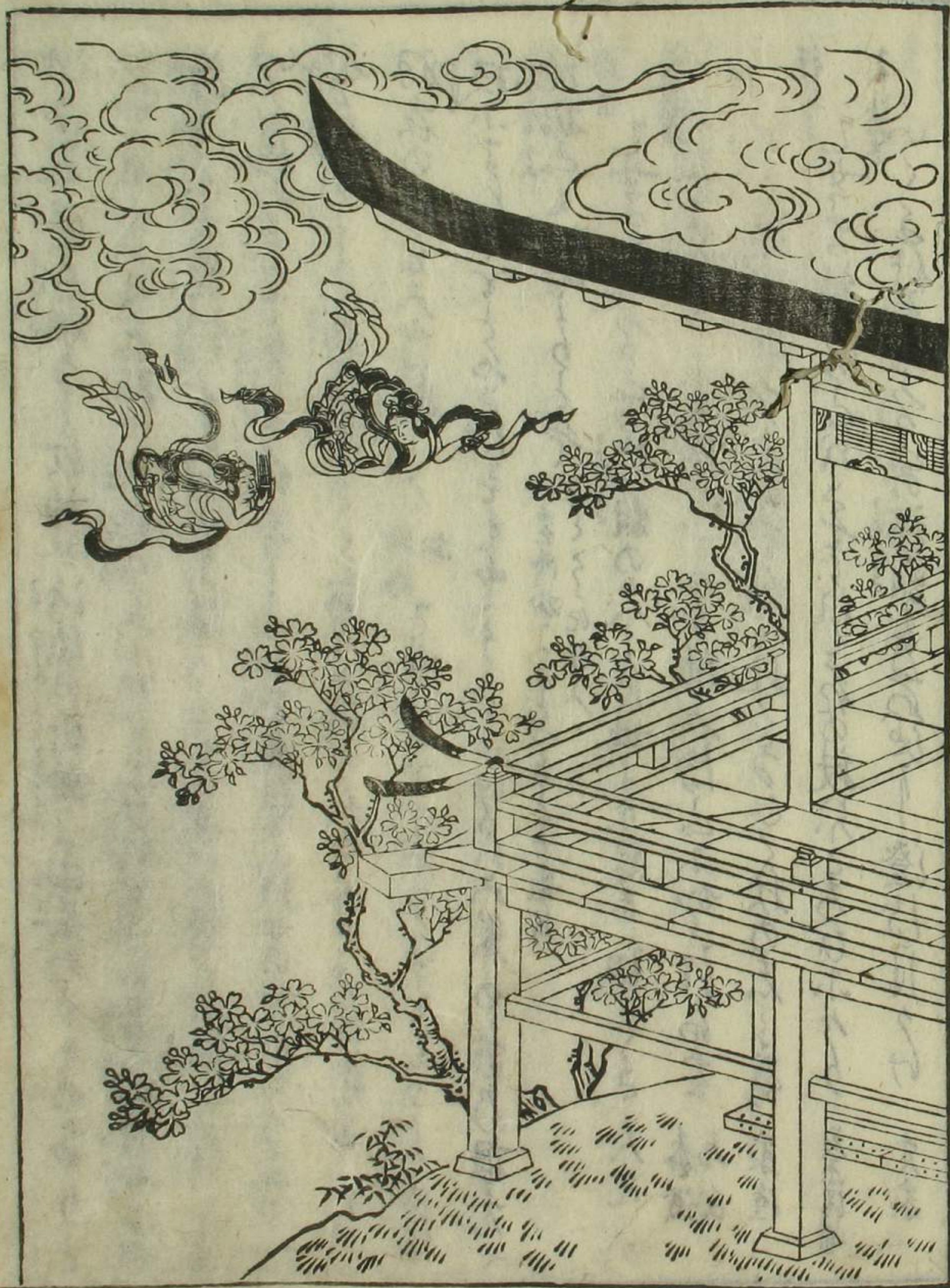
誓一軍議と謀るものと手小及び其居席今に破壊せけを

み約の足蹴武藏坊が力釘今小其の形を遺に付昔文治元年

源義経大物浦より風波の急なものとけし小空り夜よ入てい

そく小けし小入る若孫法師若義経討んとせしゆ又けし小

出中院谷小源とと小懸徒考らんと懸ん求めありらるを依



倭刀系天皇若井の切宮とて
 翠乃強一乃大人氣向一
 曲小意しておほひたり
 それより神路とてい入

けしありお分明さるに神女降臨の所披し由来あるものありと
しるし今もるん古神の御振とつげらる古旅ん求と本朝月令小曰
深濟系天皇 古神の宮小はりて日暮小琴ん弾かひし
いと具ありるも忽向への家より言氣起ると神女のおちちる人
勢勢とくく曲に應しとくあがり化の人んくくのみん海ぶと夫乃
昨夜の社に入夜籠しとく河海 乙女子とくくあひとくくくまか
彼小くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
神振とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
拾巻 乙女子と神ふるこの瑞籠のくくくく世より思自初くくく人丸
後後撰 乙女子とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
は 乙女子とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
後後撰 乙女子とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
新後拾巻 乙女子とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
いくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
定家

神心は天津乙女も思ひてよ古神の宮れむり治り小
塔尾山如意輪寺 本尊す如意輪觀世音へ後醍醐帝
所自化の本像其厨子の扉小古神より懸りてその畫圖あり其上は後
醍醐帝宸極を御讚のつわりし所子刻かひし石箱あり 畫圖へ巨勢金岡が
晴岬月前為教主 金峯嵐底現藏王 斑荆禪客安居砌 緇素群馬滿願堂
慈風扇境西流渴 惑霧暗心六度差 碧樹集雲飛鸞嶺 黄金敷地髀龍華
風月澄心文道祖 火雷宿念法陀尊 日藏聖感瑞夢處 大政天為教海繁
兩山梯峻古仙跡 四海船浮權化神 行積僧祇鑿未世 威政思類縛其身
後醍醐天皇南朝廷元二年八月九日より所不條の御事ありける後承平
ありし世終ひ終小同十八日世冠小崩しありしと藏王堂の良きり林乃奥
小田丘ありくくくく北向小葬なり同十一月二日後醍醐天皇と後
の御事なかりし記

樂天堂
功藤了角

花鳥

五